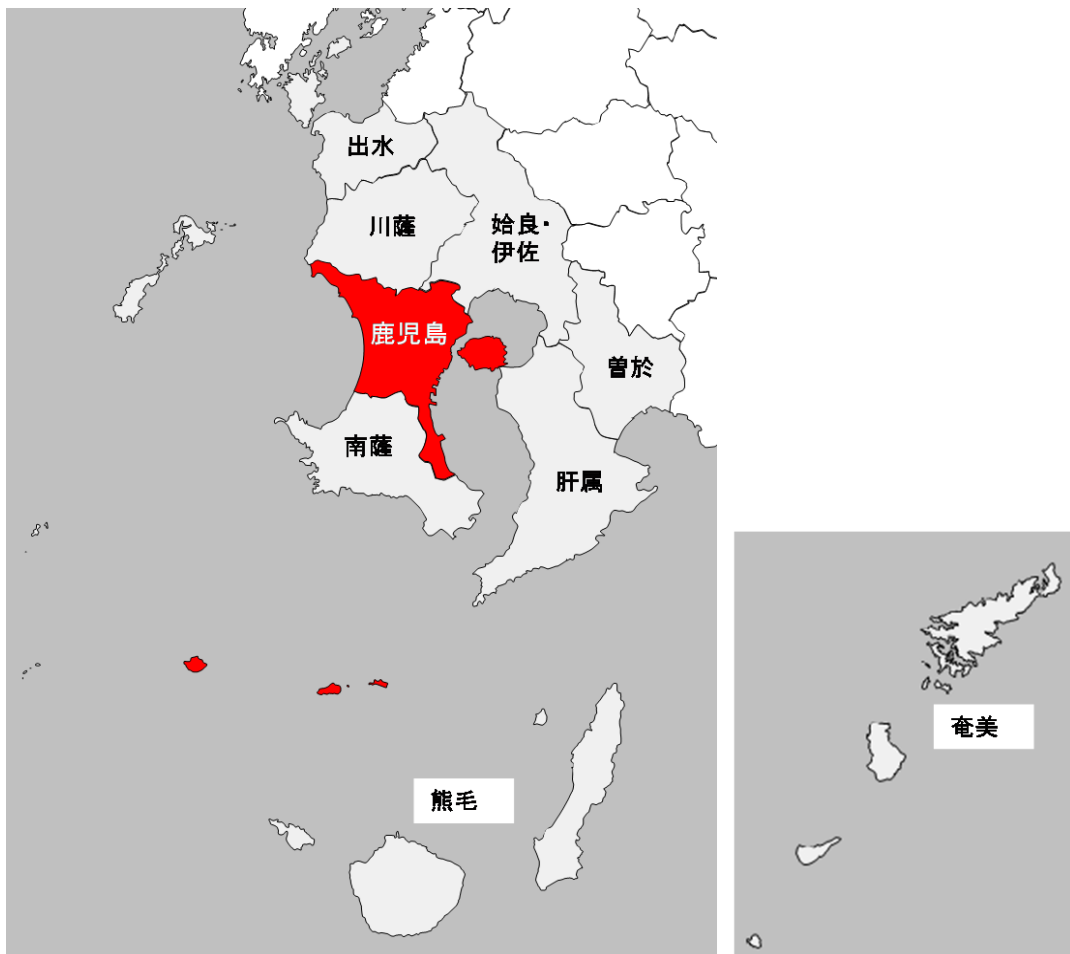


46. 鹿児島県

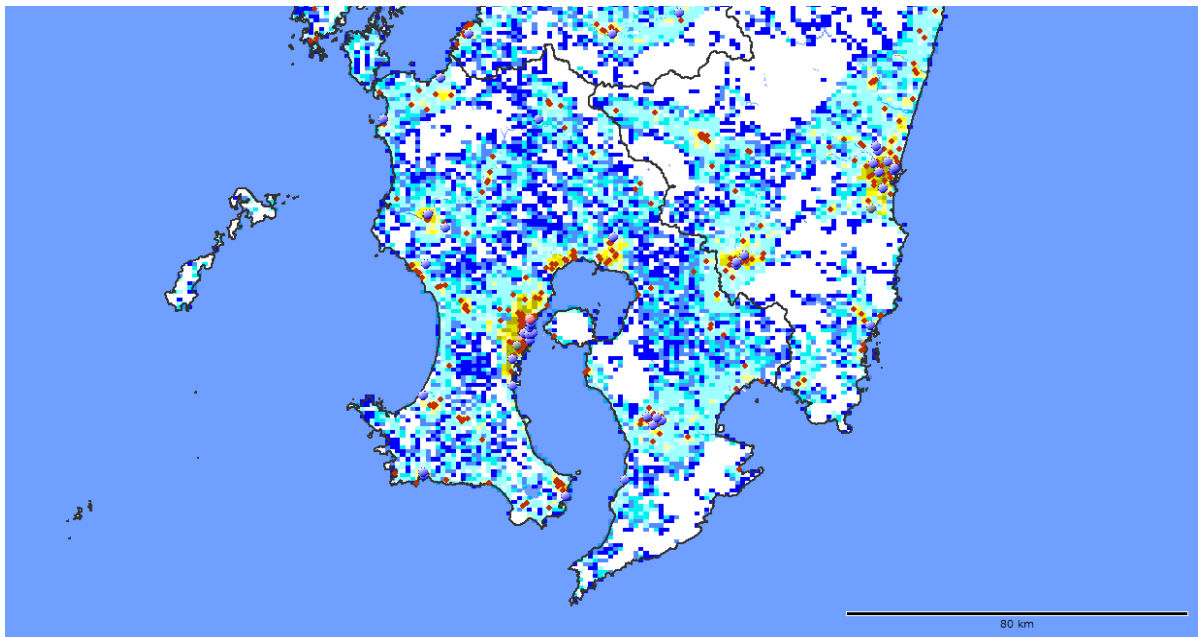


目次

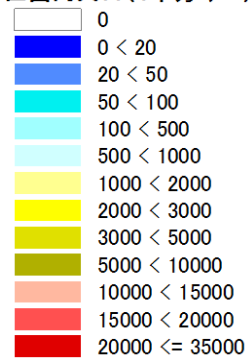
鹿児島県	46	-	3
資料編 一 当県ならびに二次医療圏別資料	46	-	8
1. 鹿児島医療圏	46	-	26
2. 南薩医療圏	46	-	31
3. 川薩医療圏	46	-	36
4. 出水医療圏	46	-	41
5. 始良・伊佐医療圏	46	-	46
6. 曾於医療圏	46	-	51
7. 肝属医療圏	46	-	56
8. 熊毛医療圏	46	-	61
9. 奄美医療圏	46	-	66

46. 鹿児島県

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キ口)



Ⅲ群

一般病院

（鹿児島県） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 鹿児島県は、総人口約1650千人（2015年推計）、面積9189km²、人口密度は180人/km²である。

***人口の将来予測：** 鹿児島県の総人口は2025年に1522千人へと減少し（2015年比－8%）、2040年に1314千人へと減少する（2025年比－14%）ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の267千人が、2025年にかけて295千人へと増加し（2015年比＋10%）、2040年には314千人へと増加する（2025年比＋6%）ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 鹿児島県の一人当たり医療費（国保）は376千円（偏差値64）、介護給付費は291千円（偏差値60）であり、医療費、介護給付費ともに高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 鹿児島県の一人当たり急性期医療密度指数²は1.14、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.17で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が53（病院医師数54、診療所医師数50）と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにはほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は68と非常に多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は60で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は50と全国平均レベルである。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は63と療養病床数は多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値69と非常に多く、回復期病床数は偏差値62と多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は65で精神病床数は多い。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は53で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 鹿児島県の総高齢者施設・住宅定員数（介護療養病床含む）合計は、27195人（75歳以上1000人当たりの偏差値51）と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が17827床（偏差値55）、高齢者住宅等が9368床（偏差値47）である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員（介護施設等）の合計は、23744人（75歳以上1000人当たりの偏差値61）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設53、特別養護老人ホーム56、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム43、軽費ホーム45、グループホーム66、サ高住43である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値54とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値63と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値56と多い。介護職員（在宅）の合計は、2473人（75歳以上1000人当たりの偏差値42）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は－2%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数ではほぼ対応可能である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

鹿児島県の総人口は、2005年1753179人が、2015年に1649674人と6%減少し、2025年の人口が1521991人と予測され、2005年→2025年の間に13%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に3%増加し、2015年から2025年にかけてほぼ増減なしと予測される。

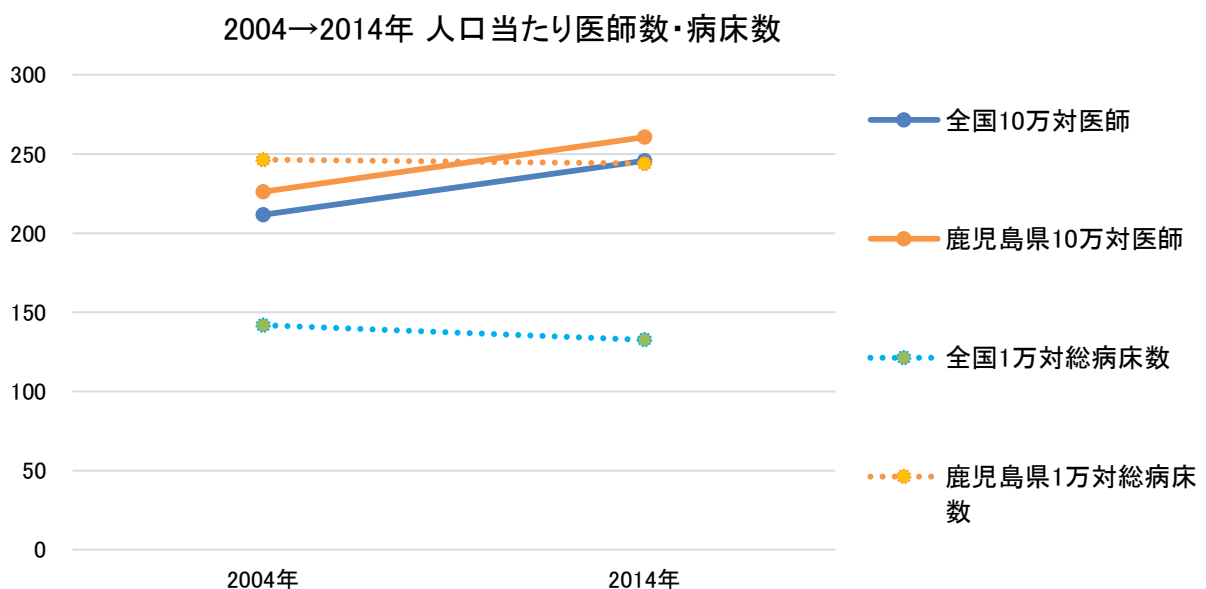
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が281(人口10万人当たり16病院(全国平均7.1)偏差値73)であったが、2014年に256(人口10万人当たり15.5病院(全国平均6.7)偏差値71)となり、10年間で25病院が減少した。

2004年の診療所数が1397(人口10万人当たり80診療所(全国平均76)偏差値52)であったが、2014年に1406(人口10万人当たり85診療所(全国平均79)偏差値53)と、9診療所が増加した。

2004年の総病床数が43212床(人口1万人当たり246(全国平均142)偏差値69)であったが、2014年に40248床(人口1万人当たり244(全国平均133)偏差値70)と、2964床の減少、率にして7%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

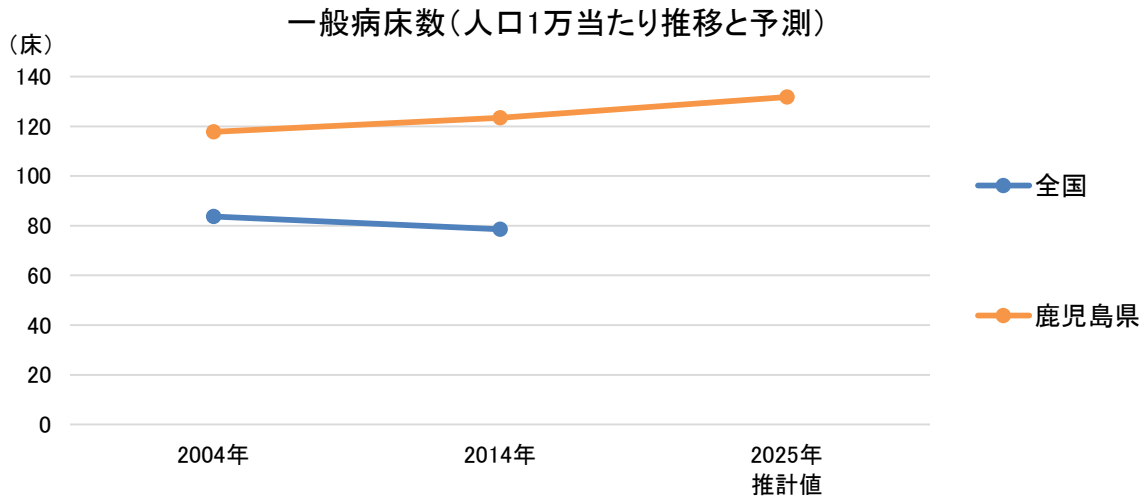
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が3967人(人口10万人当たり226人(全国平均212人)偏差値52)であったが、2014年に4300人(人口10万人当たり261人(全国平均246人)偏差値52)と、333人の増加、率にして8%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。



46. 鹿児島県（2016年版）

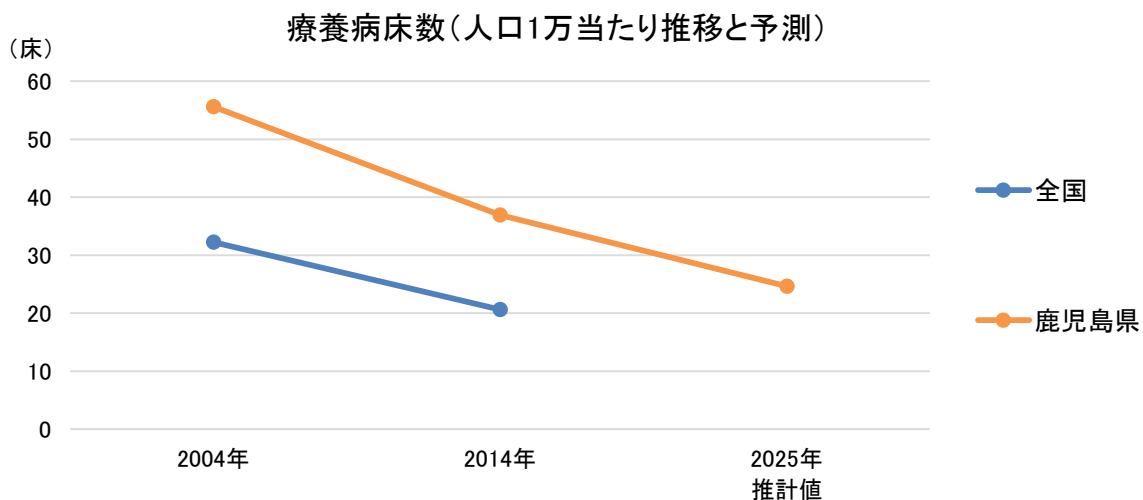
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が20651床(人口1万人当たり118(全国平均84)偏差値62)であったが、2014年に20365床(人口1万人当たり123(全国平均79)偏差値66)と、286床の減少、率にして1%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には20050床(2025年の推計人口1万人当たり132)になることが予想される。



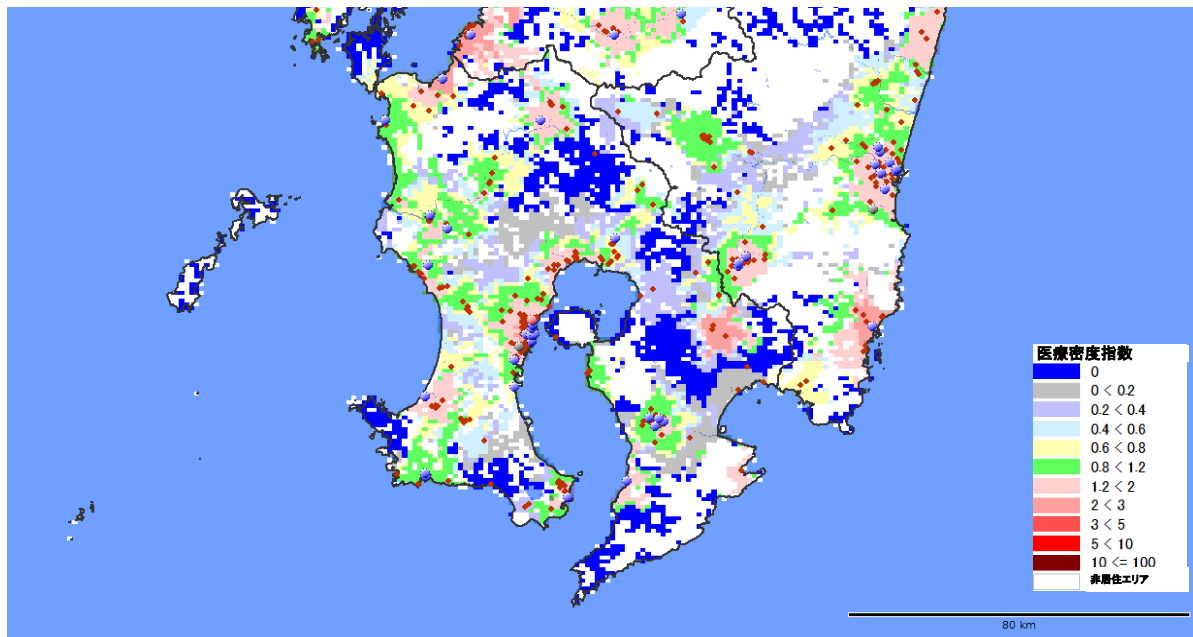
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が12230床(75歳以上1000人当たり56(全国平均32)偏差値63)であったが、2014年に9866床(75歳以上1000人当たり37(全国平均21)偏差値64)と、2364床の減少、率にして19%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には7266床(2025年の推計75歳以上1000人当たり25)になることが予想される。

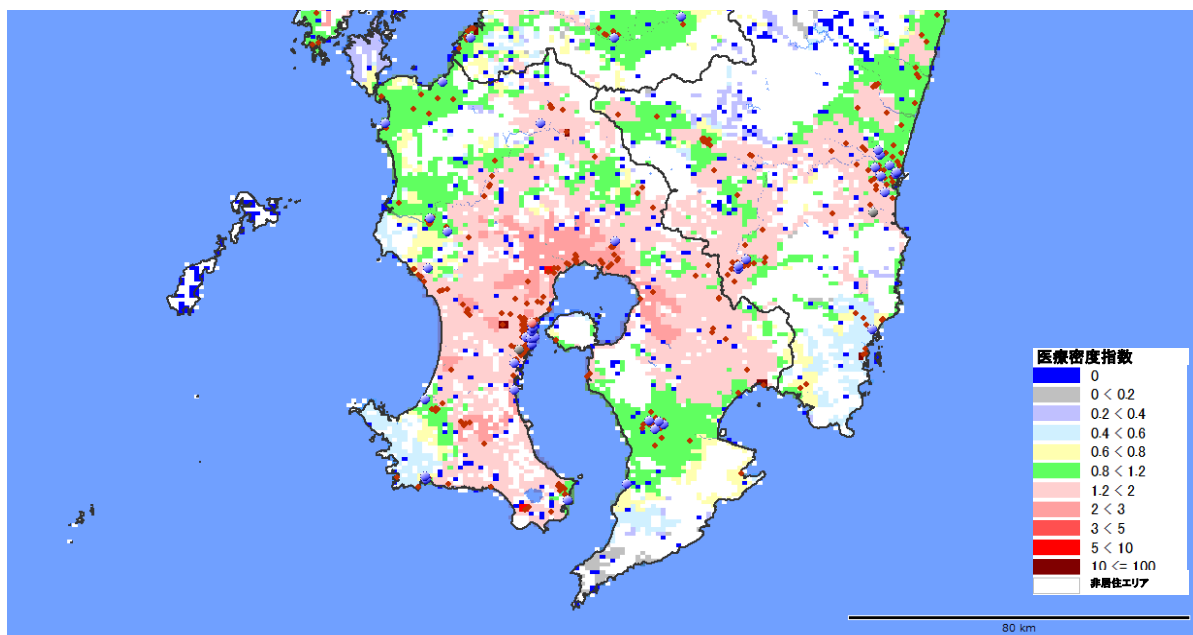


3. 医療密度⁵

図表46-1 急性期医療密度指数マップ



図表46-2 慢性期医療密度指数マップ



46. 鹿児島県（2016年版）

資料編 ー 当県ならびに二次医療圏別資料⁶

資_図表 46-1 地理情報・人口動態

二次医療圏	人口 (単位: 千人)	県内 シェア	面積	県内 シェア	人口 密度	地域タイプ	高齢 化率	2025年 総人口 (単位: 千人)	2040年 総人口 (単位: 千人)	2015年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2025年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2040年 75歳以上 人口 (単位: 千人)	2015→ 25年 総人口 増減率	2025→ 40年 総人口 増減率	2015→ 25年 75歳以上 人口 増減率	2025→ 40年 75歳以上 人口 増減率
全国	126,661		372,903		339.7		27%	120,700	107,439	16,459	21,775	22,232	-5%	-11%	32%	2%
鹿児島県	1,650	24位	9,189	10位	179.5		29%	1,522	1,314	267	295	314	-8%	-14%	10%	6%
鹿児島	680	41%	1,045	11%	650.5	地方都市型	26%	648	579	89	112	127	-5%	-11%	26%	13%
南薩	136	8%	865	9%	156.8	過疎地域型	36%	117	92	29	28	26	-14%	-21%	-3%	-7%
川薩	119	7%	987	11%	120.2	過疎地域型	31%	108	93	21	22	22	-9%	-14%	5%	0%
出水	85	5%	581	6%	146.0	過疎地域型	33%	75	61	16	16	16	-12%	-19%	0%	0%
始良・伊佐	238	14%	1,372	15%	173.6	地方都市型	29%	224	200	37	42	46	-6%	-11%	14%	10%
曾於	81	5%	781	9%	103.3	過疎地域型	35%	70	55	17	16	16	-14%	-21%	-6%	0%
肝属	157	10%	1,323	14%	118.7	過疎地域型	32%	142	121	29	29	30	-10%	-15%	0%	3%
熊毛	43	3%	995	11%	43.2	過疎地域型	33%	38	31	8	8	8	-12%	-18%	0%	0%
奄美	112	7%	1,240	13%	90.4	過疎地域型	32%	100	82	21	21	24	-11%	-18%	0%	14%

出典 <人口(2015年、2025年、2040年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月
<面積>都道府県・市区町村別主要統計表 総務省統計局 平成22年

資_図表 46-2 一人当たり医療密度指数、介護充足度指数

二次医療圏	一人当たり 急性期医療 密度指数	一人当たり 慢性期医療 密度指数	75歳以上介護充足度指数 (%)	
			2025年	2040年
全国	1.00	1.00	-26.7%	-27.2%
鹿児島県	1.14	2.17	4.4%	-1.9%
鹿児島	1.50	2.68	-11.6%	-26.6%
南薩	0.84	1.84	8.7%	14.3%
川薩	0.85	2.02	20.8%	18.4%
出水	1.07	2.81	10.8%	12.7%
始良・伊佐	0.88	1.89	1.1%	-7.8%
曾於	0.55	1.97	28.2%	31.0%
肝属	0.79	2.21	5.5%	3.9%
熊毛	0.91	2.44	-6.0%	-5.3%
奄美	1.31	1.12	20.8%	12.2%

出典 <一人当たり急性期医療密度指数><一人当たり慢性期医療密度指数>その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。
<75歳以上介護充足度指数>高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2016年の全国平均(99.3床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

資_図表 46-3 医療費、介護給付費⁷

二次医療圏	一人あたり 医療費 (国保のみ) (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数	被保険者 一人あたり 介護給付費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	319	(41)	1.000	254	(37)
鹿児島県	376	64	1.130	291	60
鹿児島	383	66	1.187	278	57
南薩	424	75	1.259	290	60
川薩	409	72	1.172	315	66
出水	401	70	1.223	305	64
始良・伊佐	391	67	1.161	262	52
曾於	365	61	1.090	312	66
肝属	360	60	1.104	318	67
熊毛	311	48	0.964	280	57
奄美	291	43	0.969	325	69
出典	<一人あたり医療費>平成25年度医療費の地域差分析 厚生労働省 <一人あたり介護給付費>平成26年度介護保険事業状況報告(年報) 平成26年度累計(平成26年3月サービス分から平成27年2月サービス分まで)				

資_図表 46-4 病院数、診療所数

二次医療圏	病院数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	8,493		6.7	(4.1)	100,461		79	(19.5)
鹿児島県	256	3.0%	15.5	71	1,406	1.4%	85	53
鹿児島	112	44%	16.5	74	608	43%	89	55
南薩	33	13%	24.3	93	119	8%	88	54
川薩	17	7%	14.3	69	129	9%	109	65
出水	8	3%	9.4	57	68	5%	80	50
始良・伊佐	33	13%	13.9	67	190	14%	80	50
曾於	10	4%	12.4	64	54	4%	67	44
肝属	23	9%	14.7	69	121	9%	77	49
熊毛	5	2%	11.6	62	23	2%	53	37
奄美	15	6%	13.4	66	94	7%	84	52
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-5 診療所数（全体、無床、有床）

二次医療圏	診療所数 (再掲)	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	無床 診療所数				有床 診療所数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	100,461		79	(19.5)			73	(19.0)			6.6	(6.6)
鹿児島県	1,406	1.4%	85	53	1,029	1.1%	62	45	377	4.5%	22.9	74
鹿児島	608	43%	89	55	453	44%	67	47	155	41%	22.8	74
南薩	119	8%	88	54	80	8%	59	43	39	10%	28.8	83
川薩	129	9%	109	65	99	10%	83	56	30	8%	25.3	78
出水	68	5%	80	50	51	5%	60	43	17	5%	20.1	70
始良・伊佐	190	14%	80	50	134	13%	56	41	56	15%	23.5	75
曾於	54	4%	67	44	44	4%	54	40	10	3%	12.4	59
肝属	121	9%	77	49	82	8%	52	39	39	10%	24.8	77
熊毛	23	2%	53	37	16	2%	37	31	7	2%	16.3	65
奄美	94	7%	84	52	70	7%	62	45	24	6%	21.4	72
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 46-6 病院総病床数、診療所病床数

二次医療圏	病院 総病床数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 病床数				病院+ 診療所 病床数			
					県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	1,568,261		1,238	(503)			89	(106)			1,327	(565)
鹿児島県	34,275	2.2%	2,078	67	5,973	5.3%	362	76	40,248	2.4%	2,440	70
鹿児島	14,224	41%	2,093	67	2,416	40%	355	75	16,640	41%	2,448	70
南薩	4,001	12%	2,950	84	670	11%	494	88	4,671	12%	3,444	87
川薩	2,006	6%	1,691	59	453	8%	382	78	2,459	6%	2,073	63
出水	1,394	4%	1,645	58	300	5%	354	75	1,694	4%	1,998	62
始良・伊佐	5,274	15%	2,215	69	871	15%	366	76	6,145	15%	2,581	72
曾於	1,095	3%	1,356	52	167	3%	207	61	1,262	3%	1,563	54
肝属	3,135	9%	1,997	65	619	10%	394	79	3,754	9%	2,391	69
熊毛	566	2%	1,316	52	123	2%	286	69	689	2%	1,602	55
奄美	2,580	8%	2,300	71	354	6%	316	71	2,934	7%	2,616	73
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				病院総病床数と診療所病床数の合計			

資_図表 46-7 病院病床数(一般病床、療養病床、精神病床)

二次医療圏	一般病床				療養病床				精神病床			
	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	894,216		706	(229)	328,144		259	(210)	338,174		267	(219)
鹿児島県	15,371	1.7%	932	60	8,887	2.7%	539	63	9,792	2.9%	594	65
鹿児島	7,158	47%	1,053	65	3,332	37%	490	61	3,635	37%	535	62
南薩	1,184	8%	873	57	1,220	14%	900	80	1,569	16%	1,157	91
川薩	853	6%	719	51	568	6%	479	60	581	6%	490	60
出水	492	3%	580	45	353	4%	416	57	545	6%	643	67
始良・伊佐	1,860	12%	781	53	1,655	19%	695	71	1,701	17%	715	70
曾於	352	2%	436	38	553	6%	685	70	188	2%	233	48
肝属	1,803	12%	1,149	69	629	7%	401	57	699	7%	445	58
熊毛	431	3%	1,002	63	0	0%	0	38	130	1%	302	52
奄美	1,238	8%	1,104	67	577	6%	514	62	744	8%	663	68
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 46-8 回復期リハビリ病棟病床数と地域包括ケア病棟病床数⁸

二次医療圏	回復期病床				地域包括ケア病床			
	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病床数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	70,480		56	(47)	36,025		34	(48)
鹿児島県	1,863	2.6%	113	62	926	2.6%	56	55
鹿児島	870	47%	128	65	318	34%	47	53
南薩	209	11%	154	71	85	9%	63	56
川薩	136	7%	115	63	166	18%	140	72
出水	123	7%	145	69	0	0%	0	43
始良・伊佐	291	16%	122	64	227	25%	95	63
曾於	16	1%	20	42	12	1%	15	46
肝属	170	9%	108	61	18	2%	11	45
熊毛	48	3%	112	62	42	5%	98	63
奄美	0	0%	0	38	58	6%	52	54
出典	平成26年度病床機能報告				平成28年6月地方厚生局(関東信越厚生局のみ7月公表分)。近畿厚生局は病床数データがないため非掲載。			

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-9 公的病院病床数、民間病院病床数

二次医療圏	公的病院			民間病院			一般病床		療養病床	
	総病床数	一般病床数	療養病床数	総病床数	一般病床数	療養病床数	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差	公的病院病床数の比率	偏差値*全国は標準偏差
全国	549,932	467,163	29,302	1,011,492	427,742	293,995	52.2%	(24%)	9.1%	(23%)
鹿児島県	10,951	7,929	953	23,096	7,208	8,061	52.4%	50	10.6%	51
鹿児島	4,946	3,621	289	9,185	3,325	3,162	52.1%	50	8.4%	50
南薩	545	419	102	3,456	781	1,106	34.9%	43	8.4%	50
川薩	610	606	0	1,375	240	554	71.6%	58	0.0%	46
出水	657	492	161	737	0	192	100.0%	70	45.6%	66
始良・伊佐	1,493	926	175	3,811	934	1,513	49.8%	49	10.4%	51
曾於	198	196	0	833	156	553	55.7%	51	0.0%	46
肝属	1,350	1,045	71	1,735	753	559	58.1%	52	11.3%	51
熊毛	62	60	0	474	341	0	15.0%	35		
奄美	1,090	564	155	1,490	678	422	45.4%	47	26.9%	58
出典	地方厚生局届出受理名簿平成27年5月公表データをもとに株式会社ウェルネスが集計(一部、ウェルネス独自調査含む) 公的病院はここでは、開設者が国もしくは都道府県、市町村、地方行政法人、その他の公的医療機関(日赤など)としている。									

資_図表 46-10 全身麻酔件数、分娩件数（年間）

二次医療圏	全身麻酔件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	分娩件数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
鹿児島県	37,176	1.3%	2,254	50	15,672	1.5%	950	55
鹿児島	24,756	67%	3,642	63	7,884	50%	1,160	62
南薩	1,548	4%	1,141	40	1,044	7%	770	49
川薩	2,172	6%	1,831	46	876	6%	739	48
出水	1,380	4%	1,628	44	876	6%	1,033	58
始良・伊佐	2,328	6%	978	38	2,520	16%	1,059	59
曾於	384	1%	476	34	0	0%	0	22
肝属	2,544	7%	1,621	44	1,248	8%	795	50
熊毛	324	1%	753	36	252	2%	586	42
奄美	1,740	5%	1,551	44	972	6%	867	52
出典	平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 46-11 医師数(総数、病院医師数、診療所医師数)

二次医療圏	総医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	病院医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	診療所医師数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	340,791		269	(92)	210,112		166	(67)	130,678		103	(33)
鹿児島県	4,847	1.4%	294	53	3,124	1.5%	189	54	1,723	1.3%	104	50
鹿児島	2,674	55%	393	63	1,834	59%	270	66	840	49%	124	56
南薩	371	8%	274	51	230	7%	169	51	142	8%	104	50
川薩	298	6%	251	48	154	5%	130	45	144	8%	121	56
出水	164	3%	194	42	93	3%	109	42	72	4%	85	44
始良・伊佐	525	11%	221	45	313	10%	132	45	212	12%	89	46
曾於	114	2%	142	36	57	2%	71	36	57	3%	71	40
肝属	360	7%	229	46	217	7%	138	46	142	8%	91	46
熊毛	73	2%	170	39	54	2%	125	44	19	1%	45	32
奄美	268	6%	239	47	172	6%	154	48	95	6%	85	44
出典	病院医師数と診療所医師数の合計				平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 46-12 専門医数(総合内科、小児科、産婦人科)

二次医療圏	総合内科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	小児科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	産婦人科専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	15,664		12.4	(6.7)	12,494		9.9	(4.6)	10,443		8.2	(3.8)
鹿児島県	173	1.1%	10.5	47	149	1.2%	9.0	48	149	1.4%	9.0	52
鹿児島	98	57%	14.4	53	88	59%	12.9	57	95	64%	14.0	65
南薩	7	4%	5.2	39	8	5%	5.9	41	9	6%	6.6	46
川薩	11	6%	9.3	45	7	5%	5.9	41	6	4%	5.1	42
出水	7	4%	8.3	44	6	4%	7.1	44	5	3%	5.9	44
始良・伊佐	20	12%	8.4	44	24	16%	10.1	50	13	9%	5.5	43
曾於	8	5%	9.9	46	1	1%	1.2	31	2	1%	2.5	35
肝属	15	9%	9.6	46	6	4%	3.8	37	11	7%	7.0	47
熊毛	0	0%	0	32	1	1%	2.3	34	1	1%	2.3	35
奄美	7	4%	6.2	41	8	5%	7.1	44	7	5%	6.2	45
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-13 専門医数（皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科）

二次医療圏	皮膚科				眼科				耳鼻咽喉科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,278		4.2	(2.1)	9,392		7.4	(3.2)	7,466		5.9	(2.6)
鹿児島県	66	1.3%	4.0	49	111	1.2%	6.7	48	94	1.3%	5.7	49
鹿児島	39	59%	5.7	57	65	59%	9.6	57	54	57%	7.9	58
南薩	4	6%	2.9	44	7	6%	5.2	43	6	6%	4.4	44
川薩	6	9%	5.1	54	8	7%	6.7	48	6	6%	5.1	47
出水	2	3%	2.4	42	5	5%	5.9	45	3	3%	3.5	41
始良・伊佐	6	9%	2.5	42	10	9%	4.2	40	11	12%	4.6	45
曾於	2	3%	2.5	42	1	1%	1.2	31	2	2%	2.5	37
肝属	4	6%	2.5	42	8	7%	5.1	43	8	9%	5.1	47
熊毛	0	0%	0	30	0	0%	0	27	1	1%	2.3	36
奄美	3	5%	2.7	43	7	6%	6.2	46	3	3%	2.7	38

出典 平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月

資_図表 46-14 専門医数（精神科、外科、整形外科）

二次医療圏	精神科				外科				整形外科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	8,293		6.5	(3.5)	20,395		16.1	(7.2)	15,369		12.1	(4.5)
鹿児島県	133	1.6%	8.1	54	284	1.4%	17.2	52	221	1.4%	13.4	53
鹿児島	75	56%	11.0	63	168	59%	24.7	62	133	60%	19.6	66
南薩	13	10%	9.6	59	18	6%	13.3	46	20	9%	14.7	56
川薩	3	2%	2.5	39	19	7%	16.0	50	16	7%	13.5	53
出水	6	5%	7.1	52	10	4%	11.8	44	5	2%	5.9	36
始良・伊佐	22	17%	9.2	58	27	10%	11.3	43	20	9%	8.4	42
曾於	0	0%	0	31	7	2%	8.7	40	4	2%	5.0	34
肝属	5	4%	3.2	40	27	10%	17.2	52	12	5%	7.6	40
熊毛	0	0%	0	31	3	1%	7.0	37	3	1%	7.0	39
奄美	9	7%	8.0	54	5	2%	4.5	34	8	4%	7.1	39

出典 平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月

資_図表 46-15 専門医数(泌尿器科、脳神経外科、放射線科)

二次医療圏	泌尿器科				脳神経外科				放射線科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	5,711		4.5	(2.1)	6,376		5.0	(2.4)	5,300		4.2	(3.0)
鹿児島県	99	1.7%	6.0	57	101	1.6%	6.1	55	89	1.7%	5.4	54
鹿児島	61	62%	9.0	72	63	62%	9.3	68	55	62%	8.1	63
南薩	4	4%	2.9	42	7	7%	5.2	51	11	12%	8.1	63
川薩	3	3%	2.5	40	3	3%	2.5	39	6	7%	5.1	53
出水	7	7%	8.3	68	6	6%	7.1	59	2	2%	2.4	44
始良・伊佐	7	7%	2.9	42	11	11%	4.6	48	5	6%	2.1	43
曾於	3	3%	3.7	46	4	4%	5.0	50	2	2%	2.5	44
肝属	9	9%	5.7	56	5	5%	3.2	42	5	6%	3.2	47
熊毛	1	1%	2.3	39	1	1%	2.3	39	1	1%	2.3	44
奄美	4	4%	3.6	45	1	1%	0.9	33	2	2%	1.8	42
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

資_図表 46-16 専門医数(麻醉科、病理、救急科)

二次医療圏	麻醉科				病理				救急科			
	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差	専門医数	県内シェア	人口10万当り	偏差値*全国は標準偏差
全国	6,566		5.2	(3.1)	1,541		1.2	(0.9)	3,291		2.6	(1.7)
鹿児島県	121	1.8%	7.3	57	24	1.6%	1.5	53	25	0.8%	1.5	44
鹿児島	88	73%	12.9	75	19	79%	2.8	67	18	72%	2.6	50
南薩	6	5%	4.4	48	0	0%	0	37	2	8%	1.5	43
川薩	7	6%	5.9	52	1	4%	0.8	46	1	4%	0.8	40
出水	3	2%	3.5	45	0	0%	0	37	0	0%	0	35
始良・伊佐	5	4%	2.1	40	2	8%	0.8	46	0	0%	0	35
曾於	1	1%	1.2	37	0	0%	0	37	0	0%	0	35
肝属	4	3%	2.5	41	2	8%	1.3	51	3	12%	1.9	46
熊毛	1	1%	2.3	41	0	0%	0	37	0	0%	0	35
奄美	6	5%	5.3	51	0	0%	0	37	1	4%	0.9	40
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月											

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-17 専門医数（形成外科、リハビリテーション科）

二次医療圏	形成外科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	リハビリテ- ション科 専門医数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,984		1.6	(1.2)	2,370		1.9	(1.3)
鹿児島県	16	0.8%	1.0	45	61	2.6%	3.7	64
鹿児島	10	63%	1.5	49	33	54%	4.9	73
南薩	0	0%	0	37	4	7%	2.9	58
川薩	1	6%	0.8	44	4	7%	3.4	61
出水	0	0%	0	37	1	2%	1.2	45
始良・伊佐	1	6%	0.4	41	14	23%	5.9	81
曾於	0	0%	0	37	0	0%	0	36
肝属	3	19%	1.9	53	2	3%	1.3	45
熊毛	1	6%	2.3	56	0	0%	0	36
奄美	0	0%	0	37	3	5%	2.7	56
出典	平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月							

資_図表 46-18 看護師数（総数、病院看護師数、診療所看護師数）

二次医療圏	総看護師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	病院 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	診療所 看護師数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,100,601		869	(289)	903,500		713	(241)	197,102		156	(74)
鹿児島県	22,700	2.1%	1,376	68	18,124	2.0%	1,099	66	4,576	2.3%	277	66
鹿児島	10,273	45%	1,511	72	8,514	47%	1,252	72	1,759	38%	259	64
南薩	2,184	10%	1,610	76	1,746	10%	1,287	74	438	10%	323	73
川薩	1,457	6%	1,229	62	1,060	6%	894	57	397	9%	335	74
出水	929	4%	1,096	58	669	4%	789	53	260	6%	307	70
始良・伊佐	3,303	15%	1,387	68	2,508	14%	1,053	64	795	17%	334	74
曾於	638	3%	791	47	448	2%	555	43	191	4%	236	61
肝属	2,140	9%	1,363	67	1,673	9%	1,066	65	467	10%	297	69
熊毛	356	2%	827	49	301	2%	700	49	54	1%	126	46
奄美	1,420	6%	1,266	64	1,206	7%	1,075	65	214	5%	191	55
出典	病院看護師数と診療所看護師数の合計				平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月			

資_図表 46-19 総療法士数と薬剤師数

二次医療圏	総療法士数	県内シェア	人口10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	薬剤師 数	県内 シェア	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	119,431		94	(52)	288,151		227	(98)
鹿児島県	3,155	2.6%	191	69	3,043	1.1%	184	46
鹿児島	1,422	45%	209	72	1,600	53%	235	51
南薩	331	11%	244	79	207	7%	153	42
川薩	200	6%	169	64	200	7%	169	44
出水	120	4%	142	59	122	4%	144	41
始良・伊佐	501	16%	210	72	373	12%	157	43
曾於	71	2%	88	49	98	3%	121	39
肝属	346	11%	221	74	251	8%	160	43
熊毛	54	2%	125	56	51	2%	119	39
奄美	111	4%	99	51	141	5%	126	40
出典	平成26年病院報告 厚生労働省 平成26年10月				平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月			

資_図表 46-20 在宅医療施設数（在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院、訪問看護ステーション）

二次医療圏	在宅療養 支援診療 所	県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	在宅療養 支援病院	県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 ステーショ ン	県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	14,679		0.9	(0.5)	1,120		0.1	(0.1)	9,602		0.6	(0.2)
鹿児島県	293	2.0%	1.1	54	40	3.6%	0.1	63	184	1.9%	0.7	56
鹿児島	103	35%	1.2	56	19	48%	0.2	73	75	41%	0.8	64
南薩	17	6%	0.6	44	3	8%	0.1	56	17	9%	0.6	51
川薩	30	10%	1.4	62	2	5%	0.1	54	12	7%	0.6	49
出水	21	7%	1.3	59	1	3%	0.1	49	12	7%	0.8	59
始良・伊佐	55	19%	1.5	63	6	15%	0.2	64	23	13%	0.6	52
曾於	6	2%	0.4	38	0	0%	0	39	7	4%	0.4	41
肝属	32	11%	1.1	54	3	8%	0.1	55	20	11%	0.7	56
熊毛	5	2%	0.6	44	1	3%	0.1	58	2	1%	0.2	31
奄美	24	8%	1.1	55	5	13%	0.2	76	16	9%	0.8	59
出典	届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平 成28年5月				届出受理医療機関名簿 地方厚生局 平 成28年5月				介護サービス情報公表システム 厚生労働省 平成28年5月			

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-21 総高齢者施設・住宅定員数、介護保険施設定員(病床)数、高齢者住宅定員数

二次医療圏	総高齢者施設・住宅定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護保険施設定員(病床)数				高齢者住宅定員数			
					全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	1,633,619		99	(17)	983,880		60	(13)	649,739		39	(15)
鹿児島県	27,195	1.7%	102	51	17,827	1.8%	67	55	9,368	1.4%	35	47
鹿児島	9,465	35%	106	54	5,299	30%	60	50	4,166	44%	47	55
南薩	2,693	10%	94	47	2,024	11%	71	59	669	7%	23	39
川薩	2,374	9%	112	58	1,806	10%	85	70	568	6%	27	42
出水	1,662	6%	105	53	1,054	6%	66	55	608	6%	38	49
始良・伊佐	3,702	14%	100	50	2,440	14%	66	55	1,262	13%	34	46
曾於	1,847	7%	109	56	1,346	8%	79	65	501	5%	29	43
肝属	2,567	9%	88	43	1,638	9%	56	47	929	10%	32	45
熊毛	648	2%	79	38	516	3%	63	53	132	1%	16	34
奄美	2,237	8%	105	54	1,704	10%	80	66	533	6%	25	40
出典	介護保険施設定員(病床)数と高齢者住宅定員数の合計				老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数の合計				有料老人ホーム、軽費ホーム、グループホーム、サ高住の合計			

資_図表 46-22 老人保健施設(老健)定員数、特別養護老人ホーム(特養)定員数、介護療養病床数

二次医療圏	老人保健施設(老健)定員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	特別養護老人ホーム(特養)定員数				介護療養病床数			
					全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差		
全国	361,993		22	(5.7)	554,289		34	(10.0)	67,598		4.1	(4.1)
鹿児島県	6,289	1.7%	24	53	10,614	1.9%	40	56	924	1.4%	3.5	48
鹿児島	1,919	31%	22	49	2,971	28%	33	50	409	44%	4.6	51
南薩	717	11%	25	55	1,261	12%	44	60	46	5%	1.6	44
川薩	590	9%	28	60	1,188	11%	56	73	28	3%	1.3	43
出水	379	6%	24	53	623	6%	39	56	52	6%	3.3	48
始良・伊佐	886	14%	24	53	1,328	13%	36	52	226	24%	6.1	55
曾於	500	8%	29	63	722	7%	42	59	124	13%	7.3	58
肝属	593	9%	20	47	1,045	10%	36	52	0	0%	0	40
熊毛	99	2%	12	33	417	4%	51	67	0	0%	0	40
奄美	606	10%	29	61	1,059	10%	50	66	39	4%	1.8	45
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 46-23 有料老人ホーム定員数、軽費ホーム定員数、グループホーム定員数

二次医療圏	有料老人ホーム	全国	75歳以上	偏差値	全国	軽費ホーム	全国	75歳以上	偏差値	全国	グループホーム	全国	75歳以上	偏差値
		シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は
		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準
		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差
全国	223,346		13.6	(10.3)		22,728		1.4	(2.1)		191,184		11.6	(5.6)
鹿児島県	1,585	0.7%	5.9	43		108	0.5%	0.4	45		5,517	2.9%	20.6	66
鹿児島	718	45%	8.1	45		108	100%	1.2	49		2,206	40%	24.8	73
南薩	50	3%	1.7	38		0	0%	0	43		422	8%	14.8	56
川薩	0	0%	0	37		0	0%	0	43		396	7%	18.7	63
出水	114	7%	7.2	44		0	0%	0	43		279	5%	17.6	61
始良・伊佐	253	16%	6.8	43		0	0%	0	43		744	13%	20.0	65
曾於	195	12%	11.5	48		0	0%	0	43		306	6%	18.0	61
肝属	84	5%	2.9	40		0	0%	0	43		753	14%	25.8	75
熊毛	0	0%	0	37		0	0%	0	43		99	2%	12.1	51
奄美	171	11%	8.1	45		0	0%	0	43		312	6%	14.7	55
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの													

資_図表 46-24 サービス付き高齢者専用賃貸住宅(サ高住)定員数

二次医療圏	サ高住(全施設)	全国	75歳以上	偏差値	全国	サ高住(特定施設)	全国	75歳以上	偏差値	全国	サ高住(非特定施設)	全国	75歳以上	偏差値	
		シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は			シェア	1,000人	*全国は	
		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	標準		県内	当り	標準	
		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	偏差		シェア		偏差	
全国	212,481		12.9	(6.7)		13,027		0.8	(1.6)		199,454		12.1	(6.3)	
鹿児島県	2,158	1.0%	8.1	43		50	0.4%	0.2	46		2,108	1.1%	7.9	43	
鹿児島	1,134	53%	12.7	50		0	0%	0	45		1,134	54%	12.7	51	
南薩	197	9%	6.9	41		0	0%	0	45		197	9%	6.9	42	
川薩	172	8%	8.1	43		0	0%	0	45		172	8%	8.1	44	
出水	215	10%	13.5	51		30	60%	1.9	57		185	9%	11.6	49	
始良・伊佐	265	12%	7.1	41		0	0%	0	45		265	13%	7.1	42	
曾於	0	0%	0	31		0	0%	0	45		0	0%	0	31	
肝属	92	4%	3.2	35		0	0%	0	45		92	4%	3.2	36	
熊毛	33	2%	4.0	37		20	40%	2.4	60		13	1%	1.6	33	
奄美	50	2%	2.4	34		0	0%	0	45		50	2%	2.4	34	
出典	サ高住(特定施設)とサ高住(非特定施設)の合計					平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの					平成28年4月 国土交通省・厚生労働省サービス付き高齢者向け住宅情報提供システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの				

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-25 介護サービス従事看護師数（介護施設、訪問看護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サービス従事看護師数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (施設)	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	看護師数 (訪問)	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	160,468		9.7	(2.4)	118,281		7.2	(2.2)	42,186		2.6	(0.8)
鹿児島県	3,021	1.9%	11.3	57	2,278	1.9%	8.5	56	743	1.8%	2.8	53
鹿児島	1,096	36%	12.3	61	759	33%	8.5	56	336	45%	3.8	64
南薩	273	9%	9.5	49	220	10%	7.7	52	53	7%	1.9	42
川薩	218	7%	10.3	52	174	8%	8.3	55	44	6%	2.1	44
出水	167	6%	10.5	53	124	5%	7.8	53	44	6%	2.7	52
始良・伊佐	473	16%	12.7	63	377	17%	10.2	64	96	13%	2.6	50
曾於	237	8%	13.9	68	206	9%	12.1	73	31	4%	1.8	41
肝属	260	9%	8.9	47	192	8%	6.6	47	68	9%	2.3	47
熊毛	49	2%	5.9	34	43	2%	5.2	41	6	1%	0.7	28
奄美	248	8%	11.7	58	183	8%	8.6	56	66	9%	3.1	56
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 46-26 介護サービス従事介護職員数（介護施設等、在宅介護）（常勤換算）

二次医療圏	介護サービス従事介護職員数	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員数 (介護施設等)	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	介護職員数 (在宅)	全国シェア 県内シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,482,791		90	(12.3)	1,259,191		77	(11.5)	223,600		13.6	(5.5)
鹿児島県	26,217	1.8%	98	56	23,744	1.9%	89	61	2,473	1.1%	9.2	42
鹿児島	8,955	34%	101	59	7,925	33%	89	61	1,030	42%	11.6	46
南薩	2,512	10%	88	48	2,382	10%	83	56	130	5%	4.5	34
川薩	2,151	8%	102	60	1,987	8%	94	65	163	7%	7.7	39
出水	1,403	5%	88	49	1,259	5%	79	52	144	6%	9.0	42
始良・伊佐	3,487	13%	94	53	3,253	14%	88	60	234	9%	6.3	37
曾於	1,652	6%	97	56	1,559	7%	92	63	93	4%	5.5	35
肝属	2,968	11%	102	60	2,670	11%	92	63	298	12%	10.2	44
熊毛	805	3%	98	57	703	3%	86	58	103	4%	12.5	48
奄美	2,283	9%	108	64	2,006	8%	94	66	278	11%	13.1	49
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 46-27 在宅医療・介護サービス利用者数(月間)

二次医療圏	在宅医療 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問看護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	訪問介護 利用者数	全国 シェア 県内 シェア	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差
全国	1,072,285		65	(31)	412,167		25	(11)	1,493,642		91	(31)
鹿児島県	18,028	1.7%	67	51	4,755	1.2%	18	43	19,222	1.3%	72	44
鹿児島	8,009	44%	90	58	1,572	33%	18	43	7,580	39%	85	48
南薩	1,037	6%	36	41	326	7%	11	37	1,274	7%	45	35
川薩	1,047	6%	50	45	374	8%	18	43	1,242	6%	59	40
出水	1,076	6%	68	51	399	8%	25	50	1,032	5%	65	42
始良・伊佐	2,494	14%	67	51	623	13%	17	42	2,113	11%	57	39
曾於	624	3%	37	41	212	4%	12	38	722	4%	42	35
肝属	1,956	11%	67	51	458	10%	16	41	2,201	11%	76	45
熊毛	168	1%	20	35	79	2%	10	36	595	3%	73	44
奄美	1,617	9%	76	54	712	15%	34	58	2,463	13%	116	58
出典	平成28年5月 都道府県介護サービス情報公表システムより株式会社ウェルネスが二次医療圏別に集計したもの											

資_図表 46-28 総人口の推移と医療需要の増減

二次医療圏	地域タイプ	総人口(2005→2015→2025)					医療需要推移 (2005→2015→2025)		
		2005年	2015年 (推計)	2005→ 15年 増減率	2025年 (推計)	2005→ 25年 増減率	2005→ 2015医療 点数増減 率	2015→ 2025医療 点数増減 率	2005→ 2025医療 点数増減 率
全国		127,767,994	126,660,501	-1%	120,699,960	-6%	13%	5%	18%
鹿児島県		1,753,179	1,649,674	-6%	1,521,991	-13%	3%	0%	3%
鹿児島	地方都市型	690,906	679,738	-2%	648,351	-6%	10%	6%	17%
南薩	過疎地域型	155,840	135,617	-13%	116,902	-25%	-5%	-7%	-12%
川薩	過疎地域型	128,058	118,595	-7%	108,078	-16%	-1%	-3%	-4%
出水	過疎地域型	94,937	84,767	-11%	75,032	-21%	-2%	-5%	-7%
始良・伊佐	地方都市型	246,214	238,057	-3%	224,204	-9%	5%	2%	7%
曾於	過疎地域型	92,360	80,739	-13%	69,754	-24%	4%	-7%	-4%
肝属	過疎地域型	170,477	156,984	-8%	142,135	-17%	-4%	-3%	-8%
熊毛	過疎地域型	47,904	43,011	-10%	38,008	-21%	10%	-6%	3%
奄美	過疎地域型	126,483	112,166	-11%	99,527	-21%	-7%	-2%	-9%
出典	<人口(2005年)>平成17年国勢調査 都道府県・市区町村別統計表(男女別人口,年齢(3区分)・割合,就業者数,昼間人口など) <人口(2015年、2025年)>日本の地域別将来推計人口 国立社会保障・人口問題研究所 平成25年3月								

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-29 病院数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	9,077	7.1	(3.9)	8,493	6.7	(4.1)	-584	-6%	7,882
鹿児島県	281	16.0	73	256	15.5	71	-25	-9%	230
鹿児島	122	17.7	77	112	16.5	74	-10	-8%	101
南薩	34	21.8	88	33	24.3	93	-1	-3%	32
川薩	21	16.4	74	17	14.3	69	-4	-19%	13
出水	11	11.6	62	8	9.4	57	-3	-27%	5
始良・伊佐	34	13.8	67	33	13.9	67	-1	-3%	32
曾於	12	13.0	65	10	12.4	64	-2	-17%	8
肝属	26	15.3	71	23	14.7	69	-3	-12%	20
熊毛	5	10.4	59	5	11.6	62	0	0%	5
奄美	16	12.6	64	15	13.4	66	-1	-6%	14
出典	<病院数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <病院数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

資_図表 46-30 診療所数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	97,051	76	(20)	100,461	79	(19)	3,410	4%	104,229
鹿児島県	1,397	80	52	1,406	85	53	9	1%	1,416
鹿児島	586	85	54	608	89	55	22	4%	632
南薩	129	83	53	119	88	54	-10	-8%	108
川薩	122	95	60	129	109	65	7	6%	137
出水	63	66	45	68	80	50	5	8%	74
始良・伊佐	180	73	49	190	80	50	10	6%	201
曾於	64	69	47	54	67	44	-10	-16%	43
肝属	129	76	50	121	77	49	-8	-6%	112
熊毛	23	48	36	23	53	37	0	0%	23
奄美	101	80	52	94	84	52	-7	-7%	86
出典	<診療所数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <診療所数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

資_図表 46-31 医師数の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 10万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	270,371	212	(84)	311,205	246	(98)	40,834	15%	356,135
鹿児島県	3,967	226	52	4,300	261	52	333	8%	4,666
鹿児島	2,163	313	62	2,549	375	63	386	18%	2,974
南薩	321	206	49	299	220	47	-22	-7%	275
川薩	239	187	47	260	219	47	21	9%	283
出水	154	162	44	137	162	41	-17	-11%	118
始良・伊佐	437	177	46	436	183	44	-1	0%	435
曾於	110	119	39	93	115	37	-17	-15%	74
肝属	292	171	45	283	180	43	-9	-3%	273
熊毛	53	111	38	51	119	37	-2	-4%	49
奄美	198	157	43	192	171	42	-6	-3%	185
出典	<総医師数2004年>平成16年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成16年12月 <総医師数2014年>平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査 厚生労働省 平成26年12月								

資_図表 46-32 総病床数(精神科を含む)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	推計値
全国	1,812,554	142	(56)	1,680,625	133	(57)	-131,929	-7%	1,535,514
鹿児島県	43,212	246	69	40,248	244	70	-2,964	-7%	36,987
鹿児島	17,431	252	70	16,640	245	70	-791	-5%	15,770
南薩	4,924	316	81	4,671	344	87	-253	-5%	4,393
川薩	2,746	214	63	2,459	207	63	-287	-10%	2,143
出水	2,000	211	62	1,694	200	62	-306	-15%	1,357
始良・伊佐	6,462	262	72	6,145	258	72	-317	-5%	5,796
曾於	1,440	156	53	1,262	156	54	-178	-12%	1,066
肝属	4,291	252	70	3,754	239	69	-537	-13%	3,163
熊毛	804	168	55	689	160	55	-115	-14%	563
奄美	3,114	246	69	2,934	262	73	-180	-6%	2,736
出典	<総病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <総病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月								

46. 鹿児島県（2016年版）

資_図表 46-33 一般病床数(病院+診療所)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年(推計値)	
	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	人口 1万 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	数	人口 1万 当り
全国	1,068,821	84	(28)	995,170	79	(27)	-73,651	-7%	914,162	76
鹿児島県	20,651	118	62	20,365	123	66	-286	-1%	20,050	132
鹿児島	9,014	130	67	9,247	136	71	233	3%	9,503	147
南薩	1,888	121	63	1,761	130	69	-127	-7%	1,621	139
川薩	1,365	107	58	1,223	103	59	-142	-10%	1,067	99
出水	928	98	55	719	85	52	-209	-23%	489	65
始良・伊佐	2,309	94	54	2,552	107	60	243	11%	2,819	126
曾於	521	56	40	477	59	43	-44	-8%	429	62
肝属	2,600	153	74	2,334	149	76	-266	-10%	2,041	144
熊毛	488	102	56	524	122	66	36	7%	564	148
奄美	1,538	122	63	1,528	136	71	-10	-1%	1,517	152
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月									

資_図表 46-34 療養病床数(病院+診療所)の推移と予測

二次医療圏	2004年			2014年			2004→2014増減		2025年(推計値)	
	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	数	75歳以上 1,000人 当り	偏差値 *全国は 標準偏差	増減数	増減率	数	75歳以上 1,000人 当り
全国	373,823	32	(18)	339,554	21	(12)	-34,269	-9%	301,883	14
鹿児島県	12,230	56	63	9,866	37	64	-2,364	-19%	7,266	25
鹿児島	4,604	70	71	3,659	41	68	-945	-21%	2,620	23
南薩	1,339	51	60	1,313	46	72	-26	-2%	1,284	46
川薩	791	41	55	651	31	59	-140	-18%	497	23
出水	511	38	53	426	27	55	-85	-17%	333	21
始良・伊佐	2,392	77	75	1,834	49	75	-558	-23%	1,220	29
曾於	693	50	60	595	35	62	-98	-14%	487	30
肝属	988	41	55	717	25	53	-271	-27%	419	14
熊毛	144	21	44	30	4	35	-114	-79%	-95	-11
奄美	768	40	54	641	30	58	-127	-17%	501	24
出典	<一般病床数2004年>平成16年医療施設調査 厚生労働省 平成16年10月 <一般病床数2014年>平成26年医療施設調査 厚生労働省 平成26年10月									

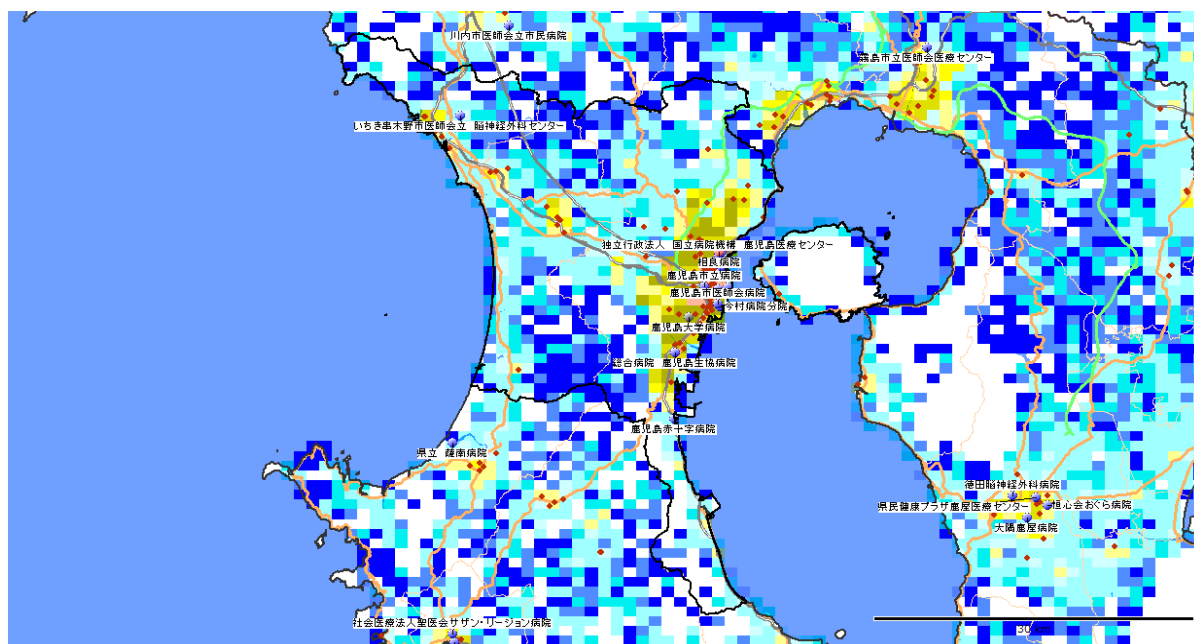
資_図表 46-35【補足】 市町村国民健康保険 診療種別、1人当たり実績医療費⁹

二次医療圏	医療費総計 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数	入院費 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数	入院外+ 調剤 (単位:千円)	偏差値 *全国は 標準偏差	地域差指数
全国	327	(42)	1.000	126	(29)	1.000	177	(17)	1.000
鹿児島県	388	64	1.163	181	69	1.405	186	55	1.033
鹿児島	397	66	1.202	183	70	1.438	191	58	1.069
南薩	429	74	1.248	202	76	1.515	206	67	1.110
川薩	432	75	1.215	199	75	1.447	213	71	1.106
出水	418	71	1.244	183	70	1.404	214	72	1.181
姶良・伊佐	405	68	1.178	189	72	1.423	195	60	1.047
曾於	375	61	1.100	170	65	1.288	185	55	1.008
肝属	356	57	1.070	162	62	1.253	176	49	0.977
熊毛	318	48	0.962	164	63	1.277	136	26	0.761
奄美	304	44	0.979	158	61	1.317	130	22	0.777
出典	平成26年度医療費の地域差分析 厚生労働省								

かごしま 46-1. 鹿児島医療圏

構成市区町村¹⁰ [鹿児島市](#) [且置市](#) [いちき串木野市](#) [三島村](#)
[土島村](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群

一般病院

(鹿児島医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 鹿児島(鹿児島市)は、総人口約680千人(2015年推計)、面積1045km²、人口密度は651人/km²の地方都市型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 鹿児島の総人口は2025年に648千人へと減少し(2015年比-5%)、2040年に579千人へと減少する(2025年比-11%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の89千人が、2025年にかけて112千人へと増加し(2015年比+26%)、2040年には127千人へと増加する(2025年比+13%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 鹿児島の一人当たり医療費(国保)は383千円(偏差値66)、介護給付費は278千円(偏差値57)であり、医療費は非常に高く、介護給付費は高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 鹿児島の一人当たり急性期医療密度指数²は1.5、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.68で、急性期の医療も慢性期の医療もかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数³の偏差値が63(病院医師数66、診療所医師数56)と、総医師数は多く、病院医師数は非常に多く、診療所医師数は多い。総看護師数の偏差値は72と非常に多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は65で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は63と多い。鹿児島には、年間全身麻酔件数が2000例以上の鹿児島市立病院(Ⅲ群・救命)、鹿児島大学病院(I群・救命)、1000例以上の国立病院機構鹿児島医療センター(Ⅱ群)、今村病院分院(Ⅲ群)、今給黎総合病院(Ⅲ群)、南風病院(Ⅲ群)、500例以上の相良病院(Ⅲ群)、鹿児島市医師会病院(Ⅲ群)、米盛病院(Ⅲ群)、鹿児島生協病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は61と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値72と非常に多く、回復期病床数は偏差値65と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は62で精神病床数は多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は55で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 鹿児島の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、9465人(75歳以上1000人当たりの偏差値54)と全国平均レベルをやや上回る。そのうち、介護保険施設の定員が5299床(偏差値50)、高齢者住宅等が4166床(偏差値55)である。介護保険施設は全国平均レベルであるが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや上回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、7925人(75歳以上1000人当たりの偏差値61)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設49、特別養護老人ホーム50、介護療養型医療施設51、有料老人ホーム45、軽費ホーム49、グループホーム73、サ高住50である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値56と多く、在宅療養支援病院は偏差値73と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値64と多い。介護職員(在宅)の合計は、1030人(75歳以上1000人当たりの偏差値46)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルをやや下回る。

*介護の2040年の需要予測： 2040年の介護充足度指数⁴は-27%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、高齢者施設・住宅の増設、あるいは相当する在宅のインフラ整備が必要である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

鹿児島医療圏の総人口は、2005年690906人が、2015年に679738人と2%減少し、2025年の人口が648351人と予測され、2005年→2025年の間に6%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に10%増加し、2015年から2025年にかけて6%程度の増加が予測される。

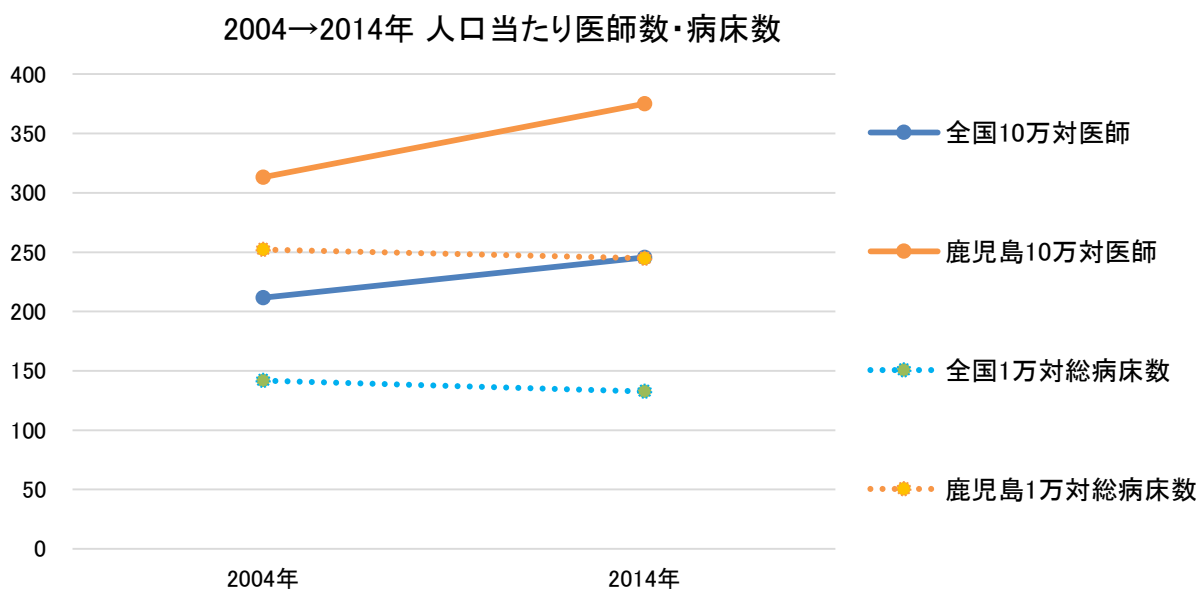
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が122(人口10万人当たり17.7病院(全国平均7.1)偏差値77)であったが、2014年に112(人口10万人当たり16.5病院(全国平均6.7)偏差値74)となり、10年間で10病院が減少した。

2004年の診療所数が586(人口10万人当たり85診療所(全国平均76)偏差値54)であったが、2014年に608(人口10万人当たり89診療所(全国平均79)偏差値55)と、22診療所が増加した。

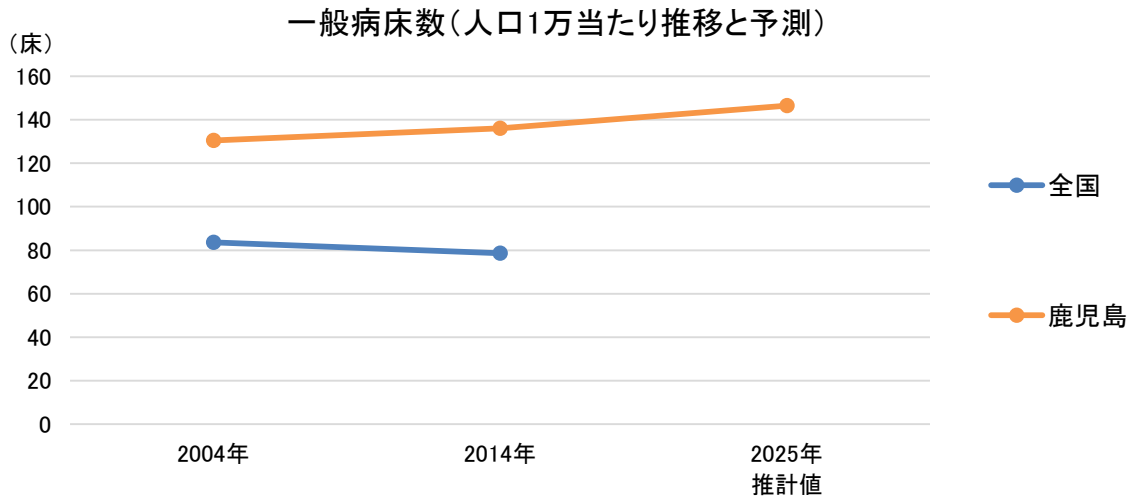
2004年の総病床数が17431床(人口1万人当たり252(全国平均142)偏差値70)であったが、2014年に16640床(人口1万人当たり245(全国平均133)偏差値70)と、791床の減少、率にして5%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が2163人(人口10万人当たり313人(全国平均212人)偏差値62)であったが、2014年に2549人(人口10万人当たり375人(全国平均246人)偏差値63)と、386人の増加、率にして18%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。



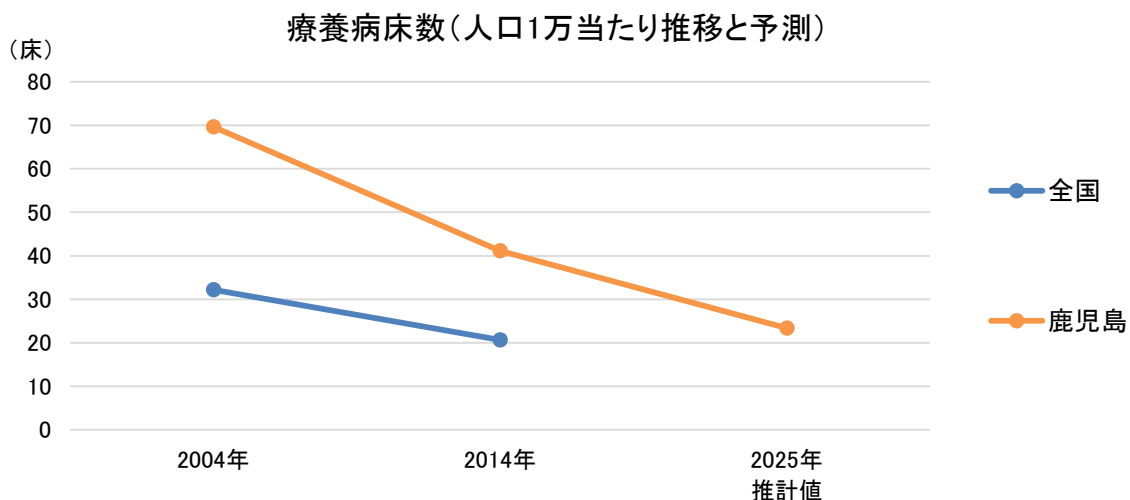
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が9014床(人口1万人当たり130(全国平均84)偏差値67)であったが、2014年に9247床(人口1万人当たり136(全国平均79)偏差値71)と、233床の増加、率にして3%の増加(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で増加が続くとすると2025年には9503床(2025年の推計人口1万人当たり147)になることが予想される。



【療養病床の推移と今後の予測】

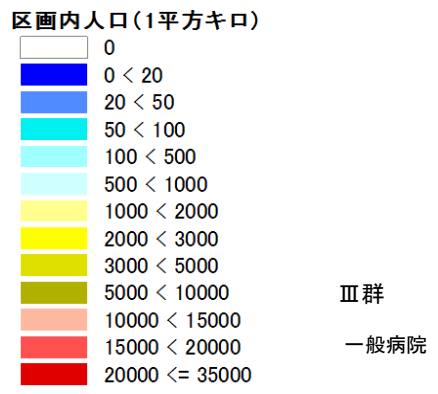
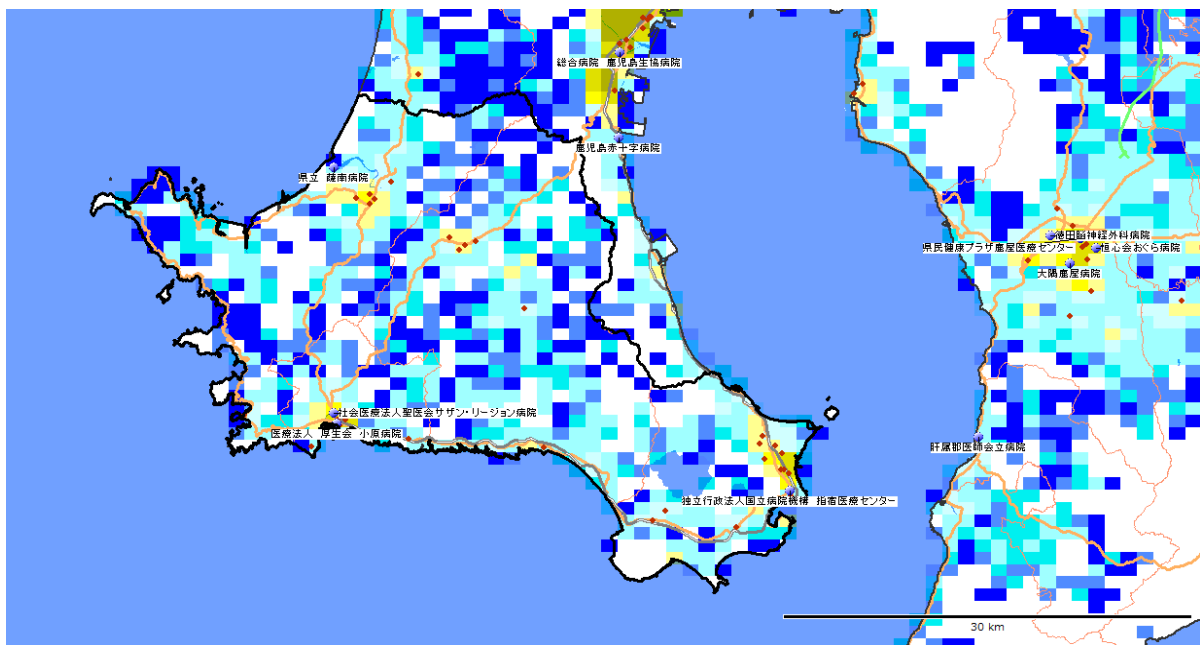
2004年の療養病床(病院+診療所)が4604床(75歳以上1000人当たり70(全国平均32)偏差値71)であったが、2014年に3659床(75歳以上1000人当たり41(全国平均21)偏差値68)と、945床の減少、率にして21%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には2620床(2025年の推計75歳以上1000人当たり23)になることが予想される。



46-2. なんさつ 南薩医療圏

構成市区町村¹⁰ [枕崎市](#) [指宿市](#) [南さつま市](#) [南九州市](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



(南薩医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 南薩(枕崎市)は、総人口約136千人(2015年推計)、面積865km²、人口密度は157人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 南薩の総人口は2025年に117千人へと減少し(2015年比-14%)、2040年に92千人へと減少する(2025年比-21%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の29千人が、2025年にかけて28千人へと減少し(2015年比-3%)、2040年には26千人へと減少する(2025年比-7%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 南薩の一人当たり医療費(国保)は424千円(偏差値75)、介護給付費は290千円(偏差値60)であり、医療費は非常に高く、介護給付費は高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 南薩の一人当たり急性期医療密度指数²は0.84、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.84で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数³の偏差値が51(病院医師数51、診療所医師数50)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は76と非常に多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は57で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は40と少ない。南薩には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は80と療養病床数は非常に多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値79と非常に多く、回復期病床数は偏差値71と非常に多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は91で精神病床数は非常に多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は54で診療所数はやや多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 南薩の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2693人(75歳以上1000人当たりの偏差値47)と全国平均レベルをやや下回る。そのうち、介護保険施設の定員が2024床(偏差値59)、高齢者住宅等が669床(偏差値39)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、2382人(75歳以上1000人当たりの偏差値56)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設55、特別養護老人ホーム60、介護療養型医療施設44、有料老人ホーム38、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム56、サ高住41である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値44と少なく、在宅療養支援病院は偏差値56と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値51と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、130人(75歳以上1000人当たりの偏差値34)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく下回る。

*介護の2040年の需要予測： 2040年の介護充足度指数⁴は+14%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

南薩医療圏の総人口は、2005年155840人が、2015年に135617人と13%減少し、2025年の人口が116902人と予測され、2005年→2025年の間に25%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に5%減少し、2015年から2025年にかけて7%程度の減少が予測される。

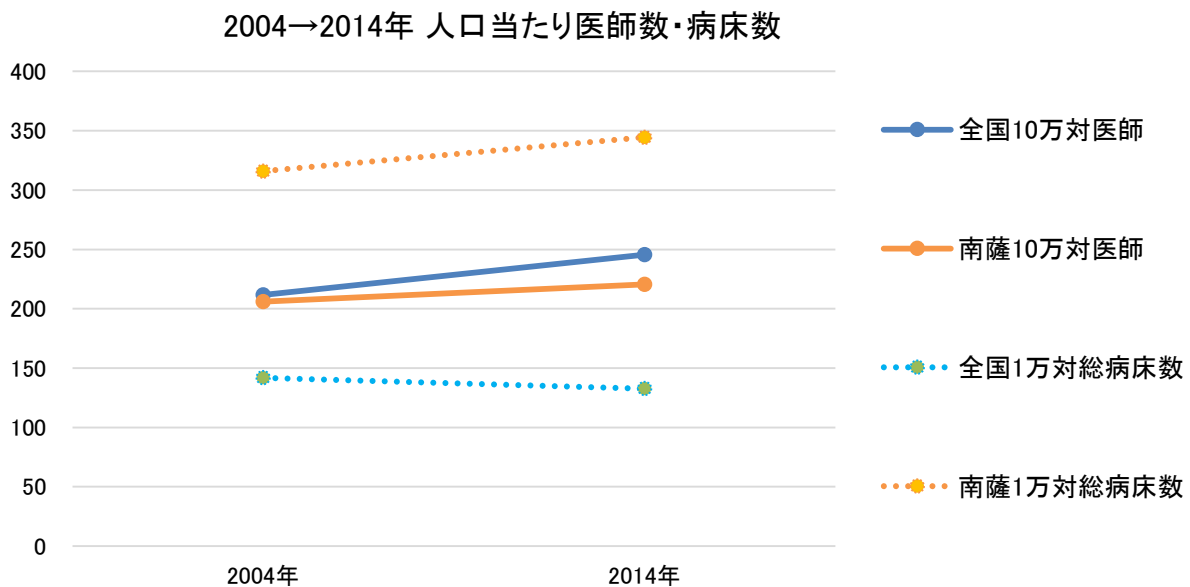
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が34(人口10万人当たり21.8病院(全国平均7.1)偏差値88)であったが、2014年に33(人口10万人当たり24.3病院(全国平均6.7)偏差値93)となり、10年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が129(人口10万人当たり83診療所(全国平均76)偏差値53)であったが、2014年に119(人口10万人当たり88診療所(全国平均79)偏差値54)と、10診療所が減少した。

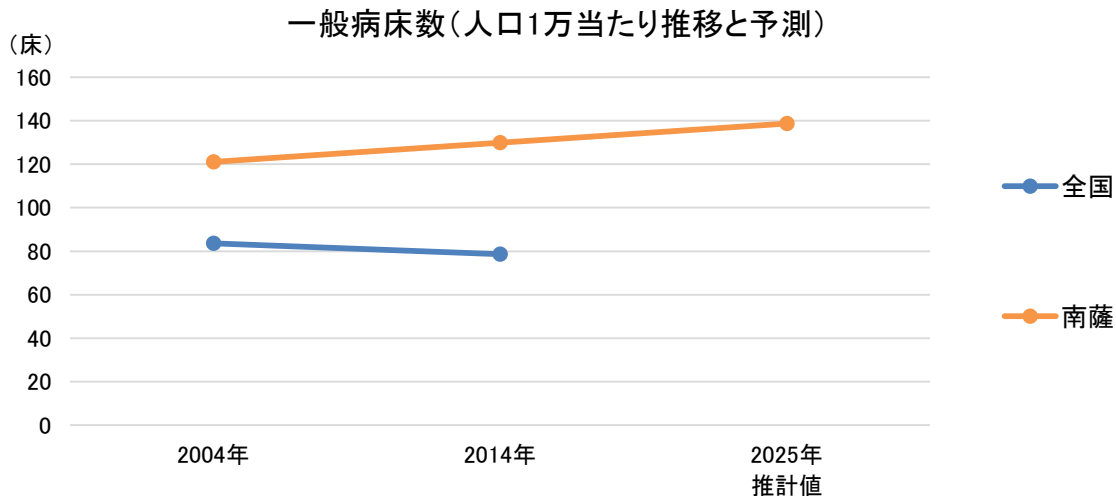
2004年の総病床数が4924床(人口1万人当たり316(全国平均142)偏差値81)であったが、2014年に4671床(人口1万人当たり344(全国平均133)偏差値87)と、253床の減少、率にして5%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が321人(人口10万人当たり206人(全国平均212人)偏差値49)であったが、2014年に299人(人口10万人当たり220人(全国平均246人)偏差値47)と、22人の減少、率にして7%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



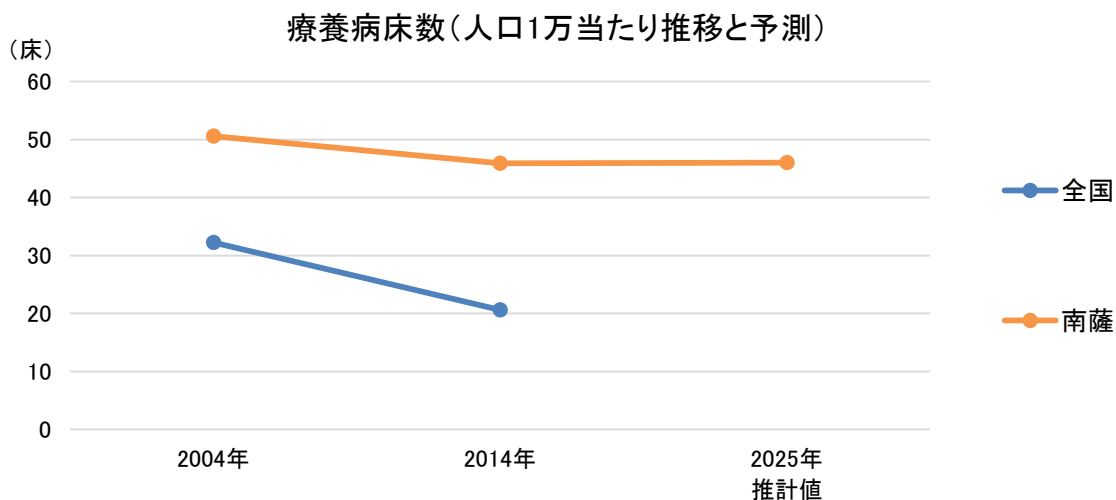
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1888床(人口1万人当たり121(全国平均84)偏差値63)であったが、2014年に1761床(人口1万人当たり130(全国平均79)偏差値69)と、127床の減少、率にして7%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1621床(2025年の推計人口1万人当たり139)になることが予想される。



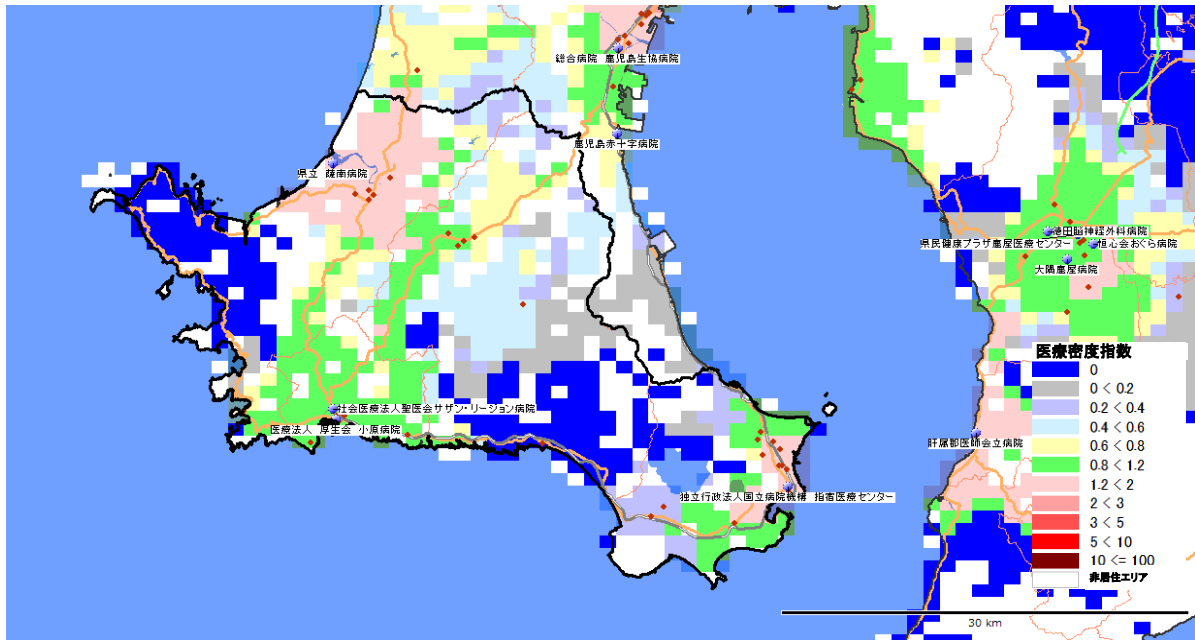
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が1339床(75歳以上1000人当たり51(全国平均32)偏差値60)であったが、2014年に1313床(75歳以上1000人当たり46(全国平均21)偏差値72)と、26床の減少、率にして2%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1284床(2025年の推計75歳以上1000人当たり46)になることが予想される。

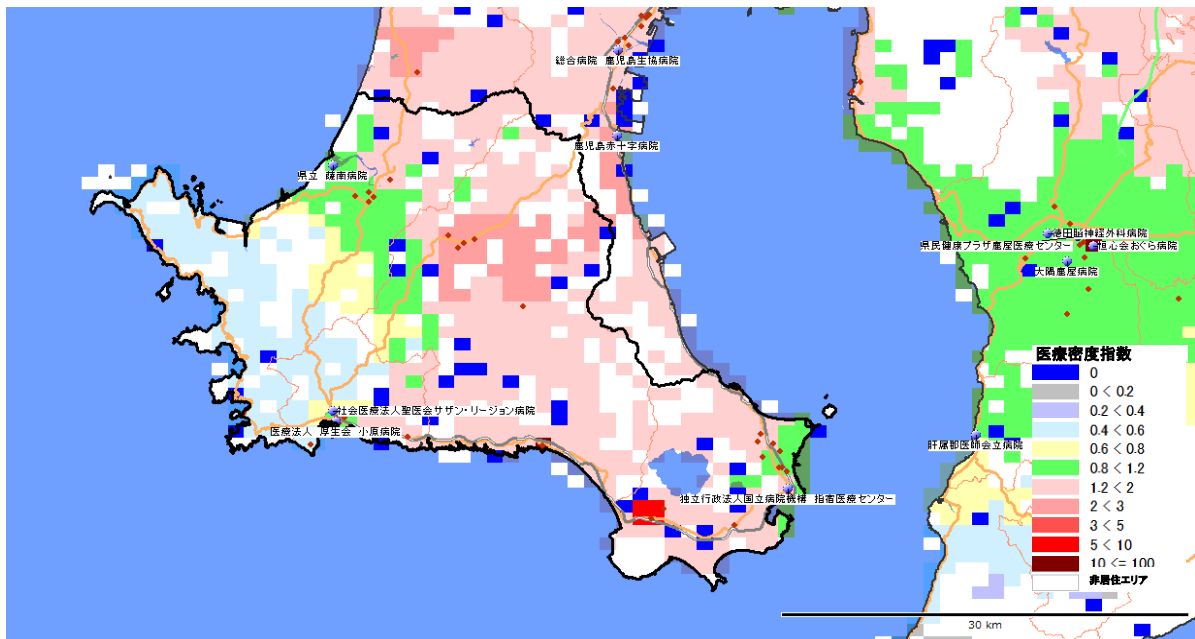


3. 医療密度⁵

図表46-2-1 急性期医療密度指数マップ



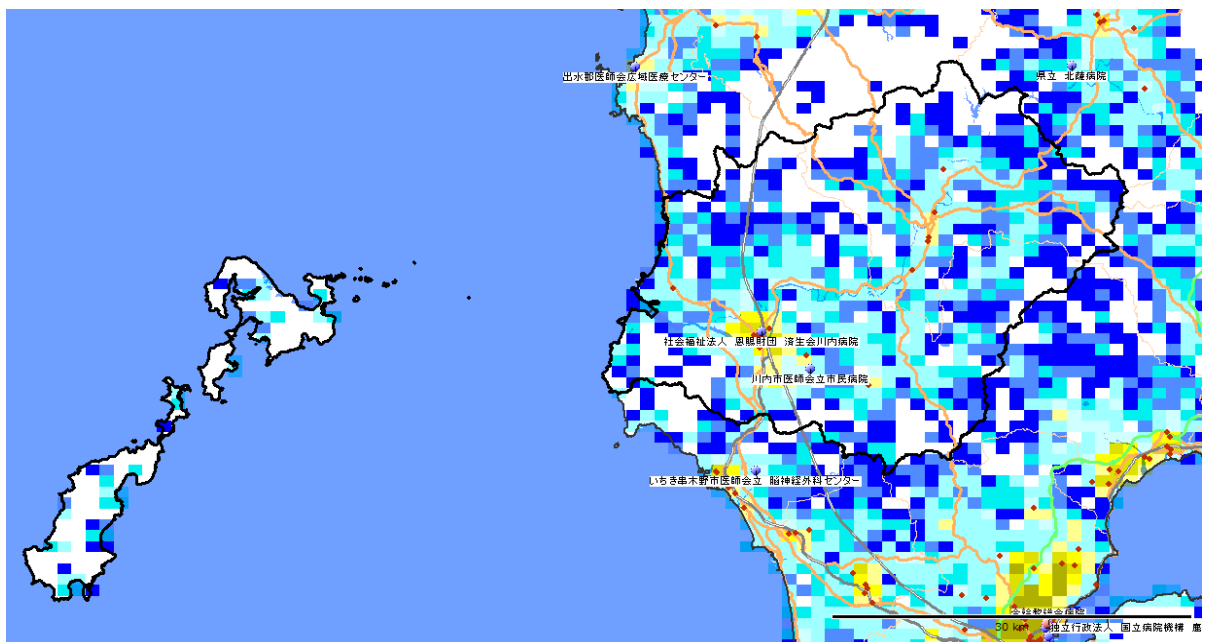
図表46-2-2 慢性期医療密度指数マップ



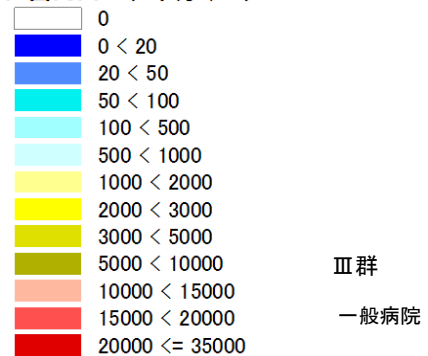
46-3. せんさつ 川薩医療圏

構成市区町村¹⁰ [薩摩川内市](#) [さつま町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



(川薩医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 川薩(薩摩川内市)は、総人口約119千人(2015年推計)、面積987km²、人口密度は120人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 川薩の総人口は2025年に108千人へと減少し(2015年比-9%)、2040年に93千人へと減少する(2025年比-14%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の21千人が、2025年にかけて22千人へと増加し(2015年比+5%)、2040年には22千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 川薩の一人当たり医療費(国保)は409千円(偏差値72)、介護給付費は315千円(偏差値66)であり、医療費、介護給付費ともに非常に高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 川薩の一人当たり急性期医療密度指数²は0.85、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.02で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数³の偏差値が48(病院医師数45、診療所医師数56)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、診療所医師数は多い。総看護師数の偏差値は62と多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は51で、一般病床は全国平均レベルである。全身麻酔数の偏差値は46とやや少ない。川薩には、年間全身麻酔件数が500例以上の済生会川内病院(Ⅲ群)がある。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は60と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値64と多く、回復期病床数は偏差値63と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は60で精神病床数は多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は65で診療所数は多い。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 川薩の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2374人(75歳以上1000人当たりの偏差値58)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1806床(偏差値70)、高齢者住宅等が568床(偏差値42)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1987人(75歳以上1000人当たりの偏差値65)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設60、特別養護老人ホーム73、介護療養型医療施設43、有料老人ホームなし(偏差値37)、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム63、サ高住43である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値62と多く、在宅療養支援病院は偏差値54とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値49と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、163人(75歳以上1000人当たりの偏差値39)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

*介護の2040年の需要予測： 2040年の介護充足度指数⁴は+18%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

川薩医療圏の総人口は、2005年128058人が、2015年に118595人と7%減少し、2025年の人口が108078人と予測され、2005年→2025年の間に16%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に1%減少し、2015年から2025年にかけて3%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

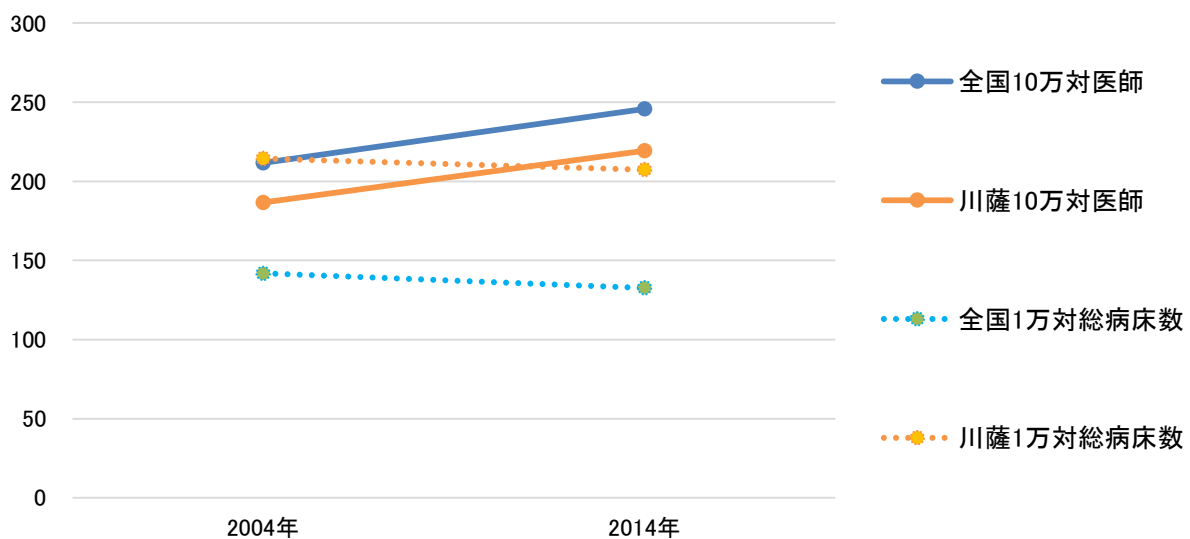
2004年の病院数が21(人口10万人当たり16.4病院(全国平均7.1)偏差値74)であったが、2014年に17(人口10万人当たり14.3病院(全国平均6.7)偏差値69)となり、10年間で4病院が減少した。

2004年の診療所数が122(人口10万人当たり95診療所(全国平均76)偏差値60)であったが、2014年に129(人口10万人当たり109診療所(全国平均79)偏差値65)と、7診療所が増加した。

2004年の総病床数が2746床(人口1万人当たり214(全国平均142)偏差値63)であったが、2014年に2459床(人口1万人当たり207(全国平均133)偏差値63)と、287床の減少、率にして10%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

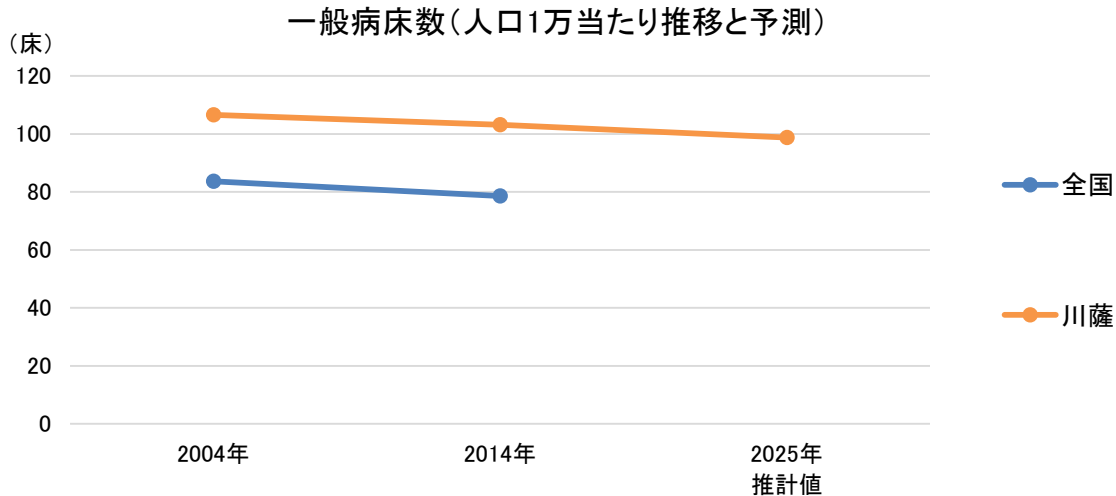
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が239人(人口10万人当たり187人(全国平均212人)偏差値47)であったが、2014年に260人(人口10万人当たり219人(全国平均246人)偏差値47)と、21人の増加、率にして9%の増加(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



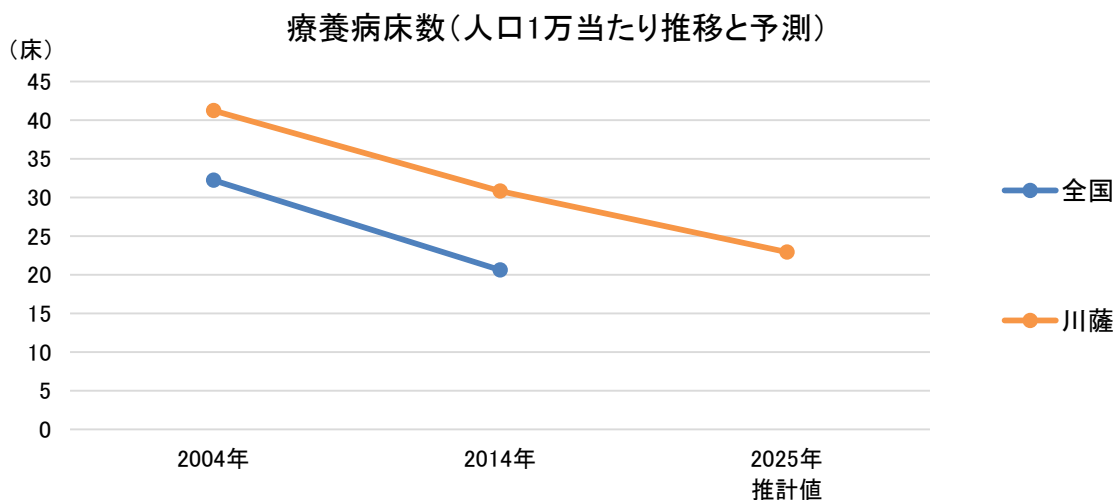
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1365床(人口1万人当たり107(全国平均84)偏差値58)であったが、2014年に1223床(人口1万人当たり103(全国平均79)偏差値59)と、142床の減少、率にして10%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1067床(2025年の推計人口1万人当たり99)になることが予想される。



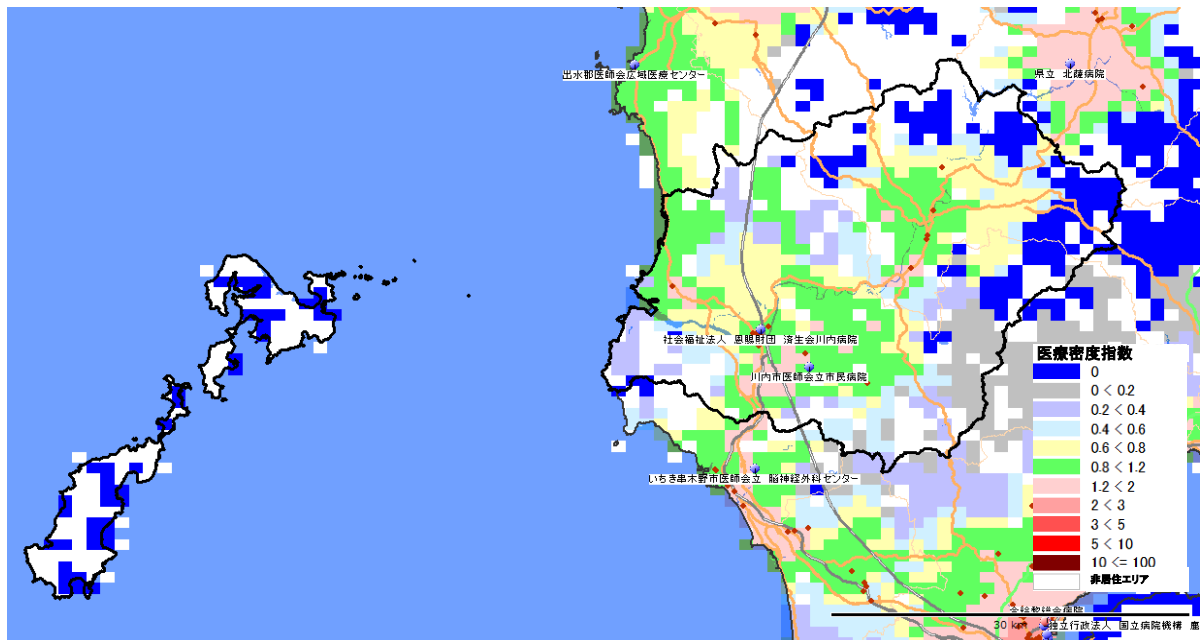
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が791床(75歳以上1000人当たり41(全国平均32)偏差値55)であったが、2014年に651床(75歳以上1000人当たり31(全国平均21)偏差値59)と、140床の減少、率にして18%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には497床(2025年の推計75歳以上1000人当たり23)になることが予想される。

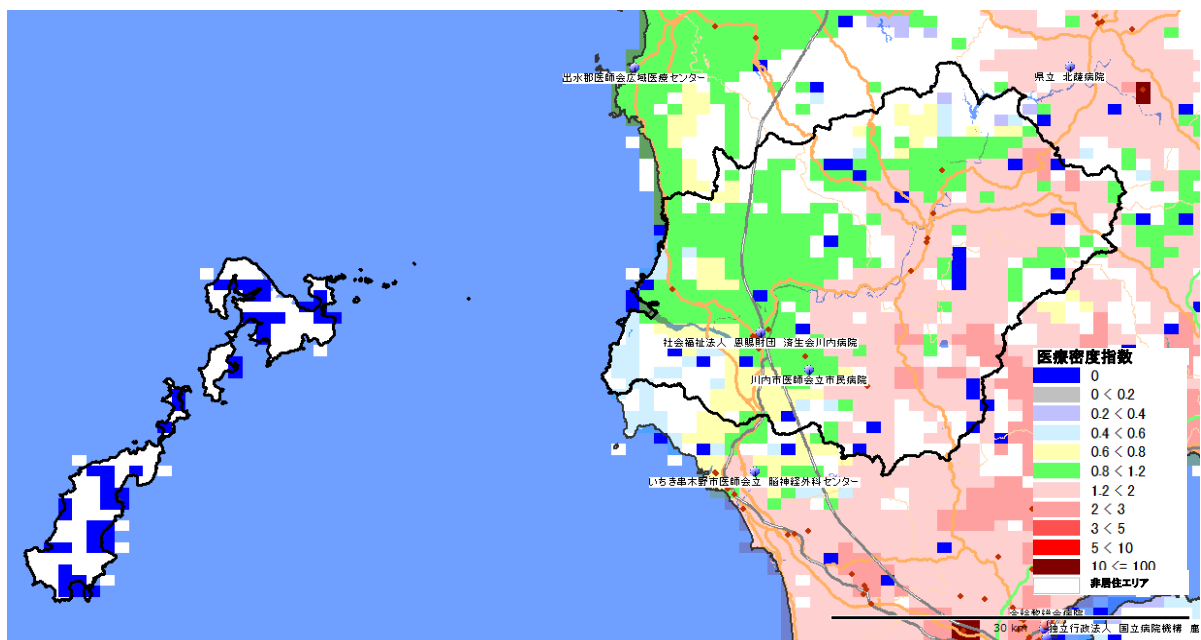


3. 医療密度⁵

図表46-3-1 急性期医療密度指数マップ



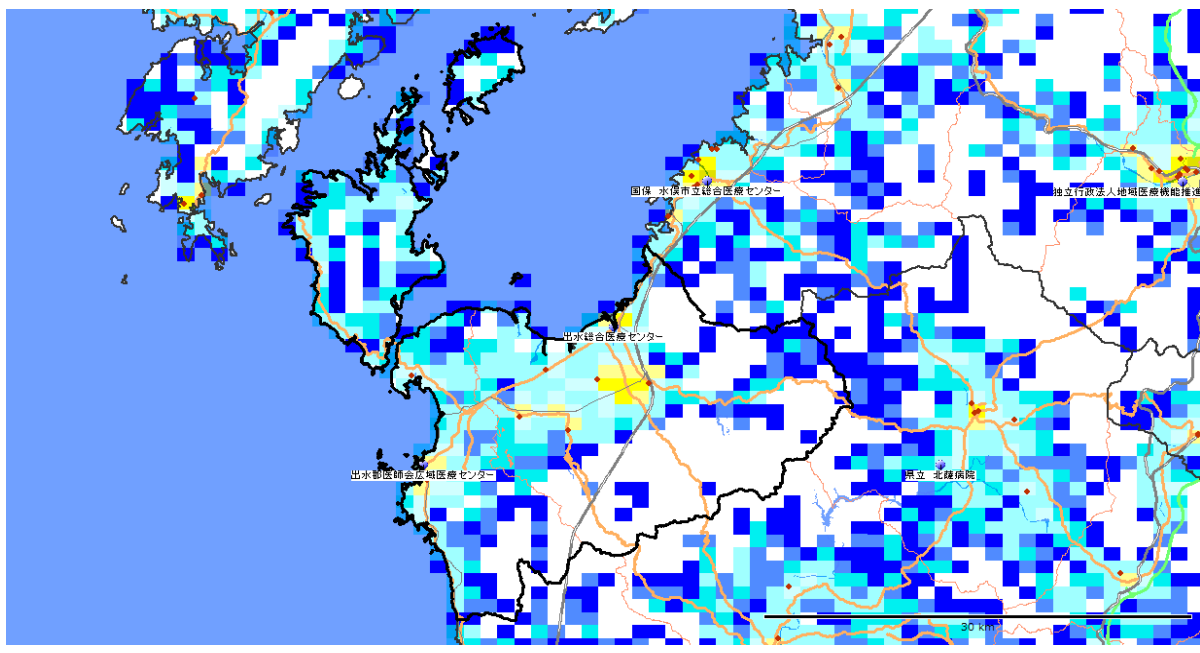
図表46-3-2 慢性期医療密度指数マップ



46-4. いずみ 出水医療圏

構成市区町村¹⁰ [阿久根市](#) [出水市](#) [長島町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群
一般病院

（出水医療圏） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 出水（阿久根市）は、総人口約85千人（2015年推計）、面積581km²、人口密度は146人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 出水の総人口は2025年に75千人へと減少し（2015年比-12%）、2040年に61千人へと減少する（2025年比-19%）ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の16千人が、2025年にかけて16千人とほぼ変わらず（2015年比±0%）、2040年には16千人とほぼ変わらない（2025年比±0%）ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 出水の一人当たり医療費（国保）は401千円（偏差値70）、介護給付費は305千円（偏差値64）であり、医療費は非常に高く、介護給付費は高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 出水の一人当たり急性期医療密度指数²は1.07、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.81で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が42（病院医師数42、診療所医師数44）と、総医師数、病院医師数、診療所医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は58と多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は45で、一般病床はやや少ない。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。出水には、年間全身麻酔件数が500例以上の出水郡医師会広域医療センター（Ⅲ群）がある。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は57と療養病床数は多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値59と多く、回復期病床数は偏差値69と非常に多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は67で精神病床数は非常に多い。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は50で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 出水の総高齢者施設・住宅定員数（介護療養病床含む）合計は、1662人（75歳以上1000人当たりの偏差値53）と全国平均レベルをやや上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1054床（偏差値55）、高齢者住宅等が608床（偏差値49）である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回り、高齢者住宅等は全国平均レベルである。また、介護職員（介護施設等）の合計は、1259人（75歳以上1000人当たりの偏差値52）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設53、特別養護老人ホーム56、介護療養型医療施設48、有料老人ホーム44、軽費ホームなし（偏差値43）、グループホーム61、サ高住51である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値59と多く、在宅療養支援病院は偏差値49と全国平均レベルである。また、訪問看護ステーションは偏差値59と多い。介護職員（在宅）の合計は、144人（75歳以上1000人当たりの偏差値42）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は+13%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

出水医療圏の総人口は、2005年94937人が、2015年に84767人と11%減少し、2025年の人口が75032人と予測され、2005年→2025年の間に21%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に2%減少し、2015年から2025年にかけて5%程度の減少が予測される。

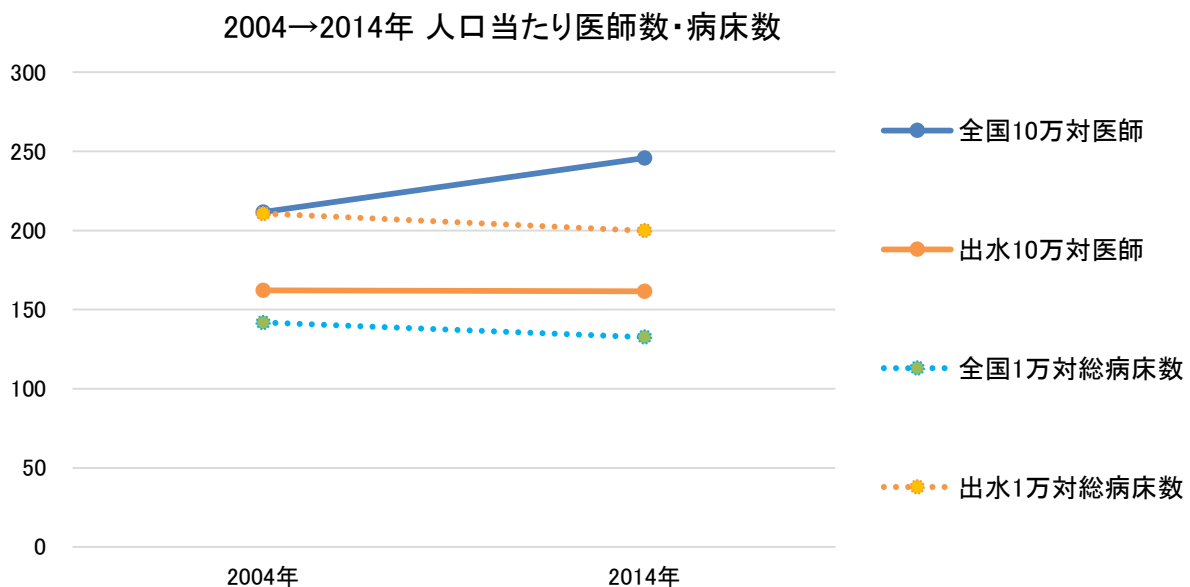
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が11(人口10万人当たり11.6病院(全国平均7.1)偏差値62)であったが、2014年に8(人口10万人当たり9.4病院(全国平均6.7)偏差値57)となり、10年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が63(人口10万人当たり66診療所(全国平均76)偏差値45)であったが、2014年に68(人口10万人当たり80診療所(全国平均79)偏差値50)と、5診療所が増加した。

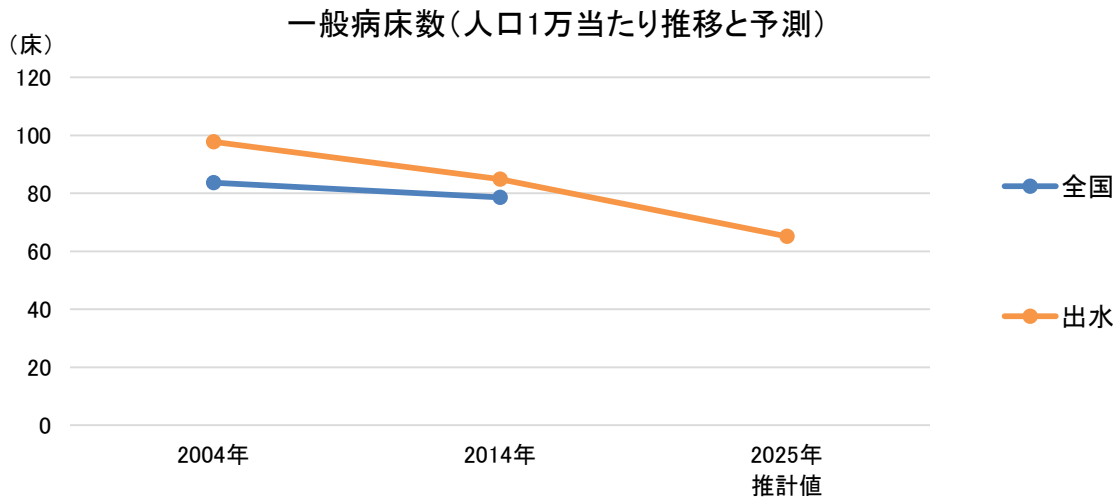
2004年の総病床数が2000床(人口1万人当たり211(全国平均142)偏差値62)であったが、2014年に1694床(人口1万人当たり200(全国平均133)偏差値62)と、306床の減少、率にして15%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が154人(人口10万人当たり162人(全国平均212人)偏差値44)であったが、2014年に137人(人口10万人当たり162人(全国平均246人)偏差値41)と、17人の減少、率にして11%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



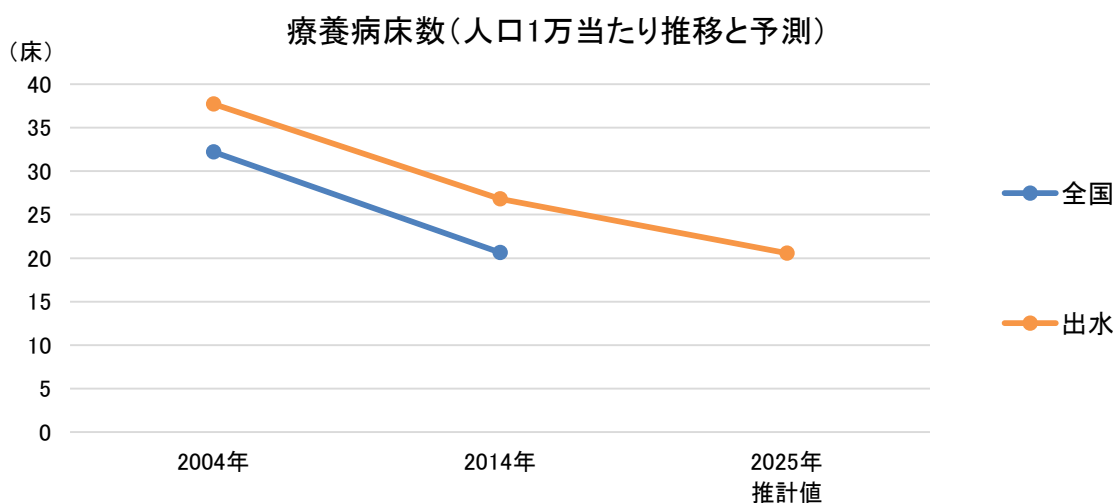
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が928床(人口1万人当たり98(全国平均84)偏差値55)であったが、2014年に719床(人口1万人当たり85(全国平均79)偏差値52)と、209床の減少、率にして23%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には489床(2025年の推計人口1万人当たり65)になることが予想される。



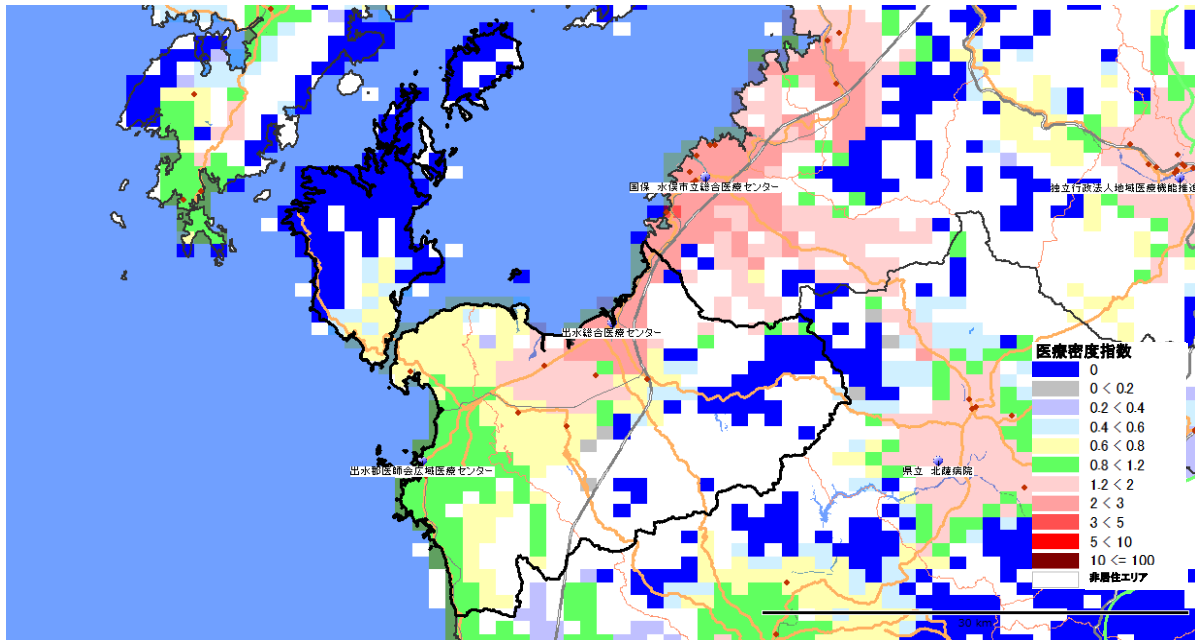
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が511床(75歳以上1000人当たり38(全国平均32)偏差値53)であったが、2014年に426床(75歳以上1000人当たり27(全国平均21)偏差値55)と、85床の減少、率にして17%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には333床(2025年の推計75歳以上1000人当たり21)になることが予想される。

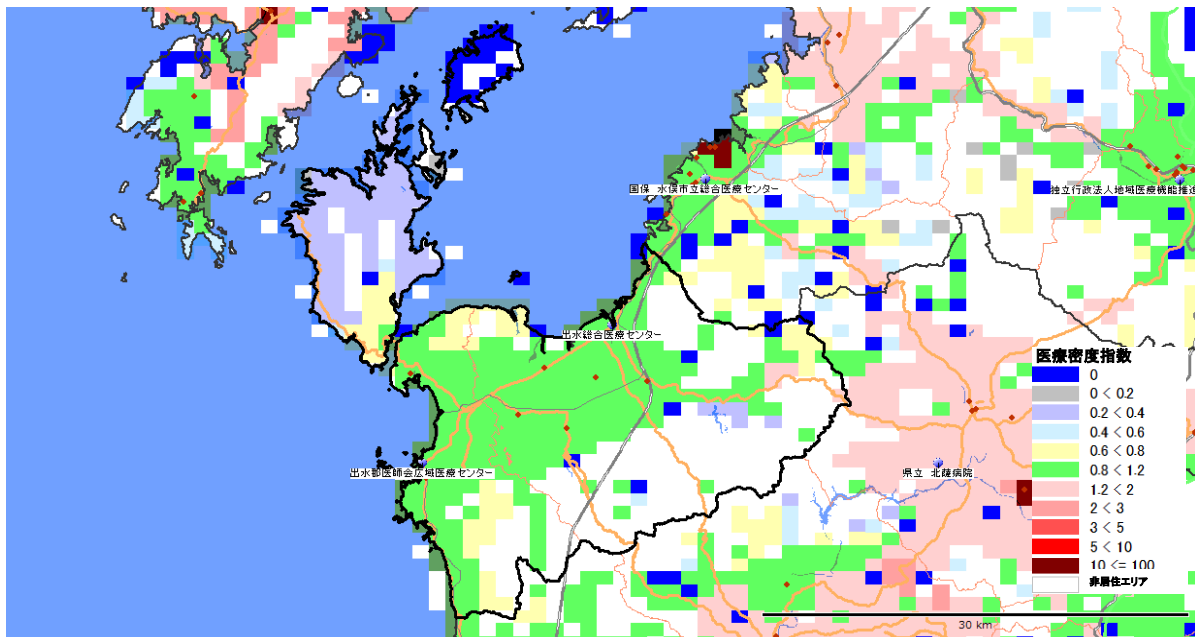


3. 医療密度⁵

図表46-4-1 急性期医療密度指数マップ



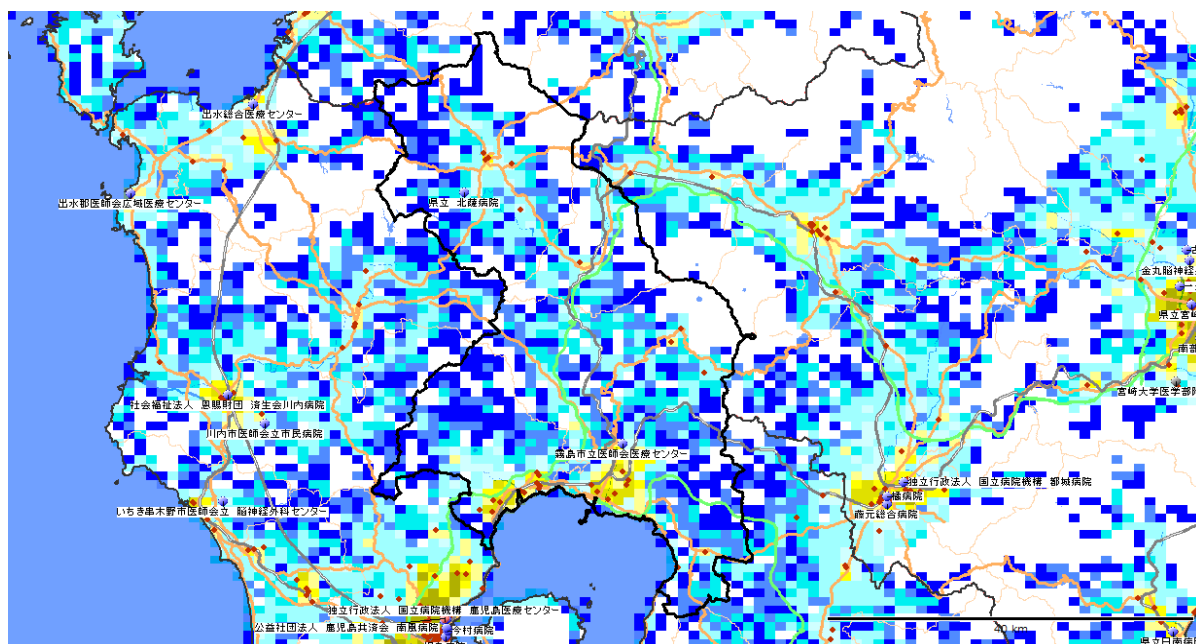
図表46-4-2 慢性期医療密度指数マップ



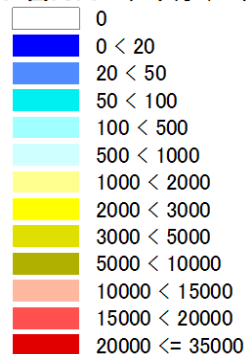
46-5. あいらいさ 始良・伊佐医療圏

構成市区町村¹⁰ [霧島市](#) [伊佐市](#) [始良市](#) [湧水町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群

一般病院

(始良・伊佐医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

***人口、面積など：** 始良・伊佐(霧島市)は、総人口約238千人(2015年推計)、面積1372km²、人口密度は174人/km²の地方都市型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 始良・伊佐の総人口は2025年に224千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年に200千人へと減少する(2025年比-11%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の37千人が、2025年にかけて42千人へと増加し(2015年比+14%)、2040年には46千人へと増加する(2025年比+10%)ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 始良・伊佐の一人当たり医療費(国保)は391千円(偏差値67)、介護給付費は262千円(偏差値52)であり、医療費は非常に高く、介護給付費は全国平均レベルである。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 始良・伊佐の一人当たり急性期医療密度指数²は0.88、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.89で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が45(病院医師数45、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともにほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は68と非常に多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は53で、一般病床はやや多い。全身麻酔数の偏差値は38と少ない。始良・伊佐には、年間全身麻酔件数が500例以上の霧島市立医師会医療センター(Ⅲ群)がある。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は71と療養病床数は非常に多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値72と非常に多く、回復期病床数は偏差値64と多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は70で精神病床数は非常に多い。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は50で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 始良・伊佐の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、3702人(75歳以上1000人当たりの偏差値50)と全国平均レベルである。そのうち、介護保険施設の定員が2440床(偏差値55)、高齢者住宅等が1262床(偏差値46)である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、3253人(75歳以上1000人当たりの偏差値60)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設53、特別養護老人ホーム52、介護療養型医療施設55、有料老人ホーム43、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム65、サ高住41である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値63と多く、在宅療養支援病院は偏差値64と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値52と全国平均レベルである。介護職員(在宅)の合計は、234人(75歳以上1000人当たりの偏差値37)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は-8%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

始良・伊佐医療圏の総人口は、2005年246214人が、2015年に238057人と3%減少し、2025年の人口が224204人と予測され、2005年→2025年の間に9%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に5%増加し、2015年から2025年にかけて2%程度の増加が予測される。

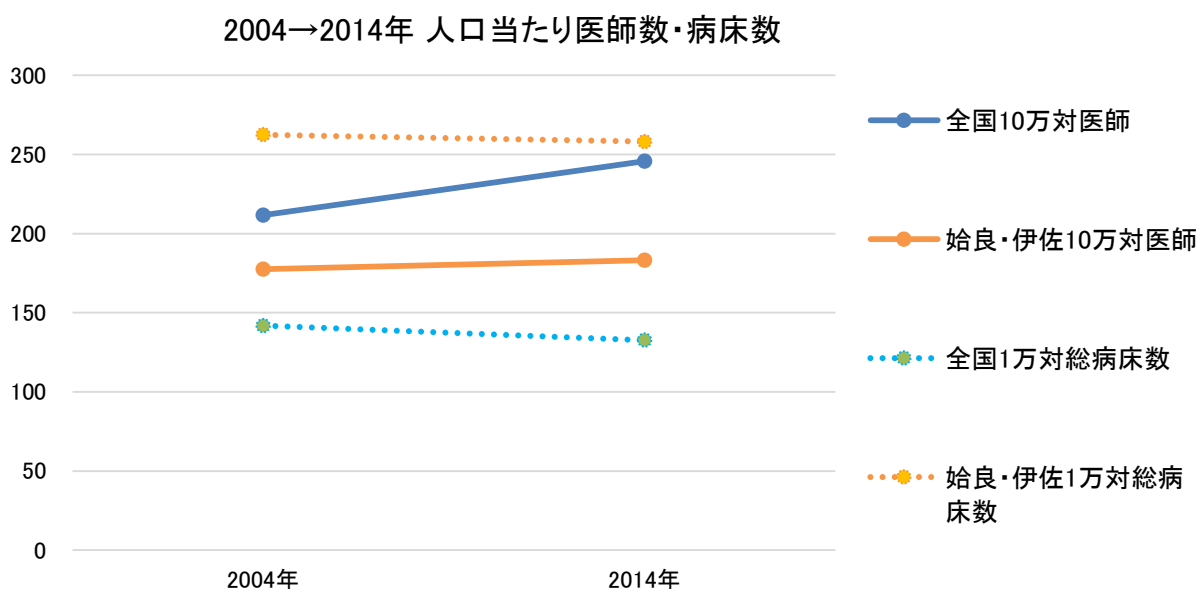
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が34(人口10万人当たり13.8病院(全国平均7.1)偏差値67)であったが、2014年に33(人口10万人当たり13.9病院(全国平均6.7)偏差値67)となり、10年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が180(人口10万人当たり73診療所(全国平均76)偏差値49)であったが、2014年に190(人口10万人当たり80診療所(全国平均79)偏差値50)と、10診療所が増加した。

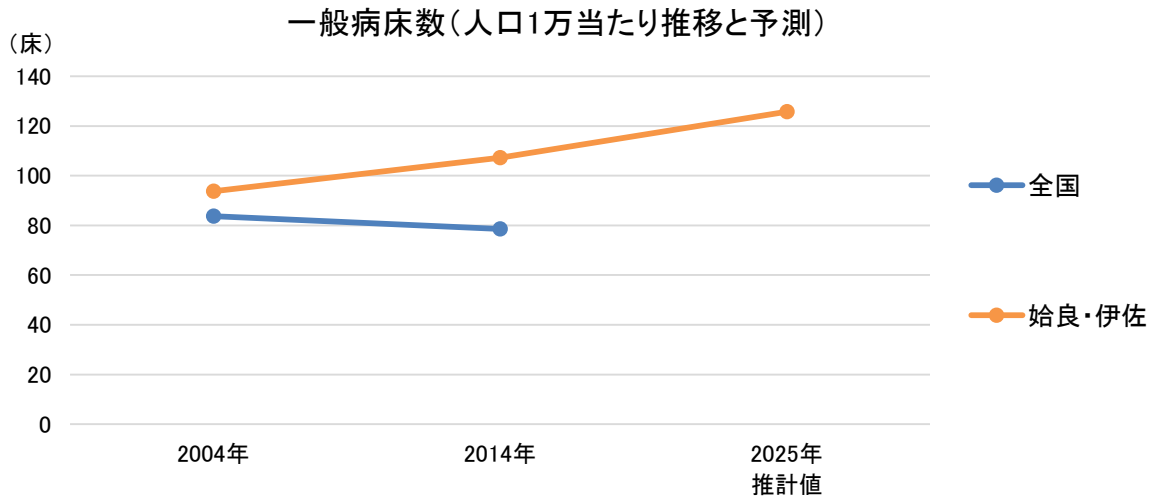
2004年の総病床数が6462床(人口1万人当たり262(全国平均142)偏差値72)であったが、2014年に6145床(人口1万人当たり258(全国平均133)偏差値72)と、317床の減少、率にして5%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が437人(人口10万人当たり177人(全国平均212人)偏差値46)であったが、2014年に436人(人口10万人当たり183人(全国平均246人)偏差値44)と、1人の減少、率にして1%未満の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



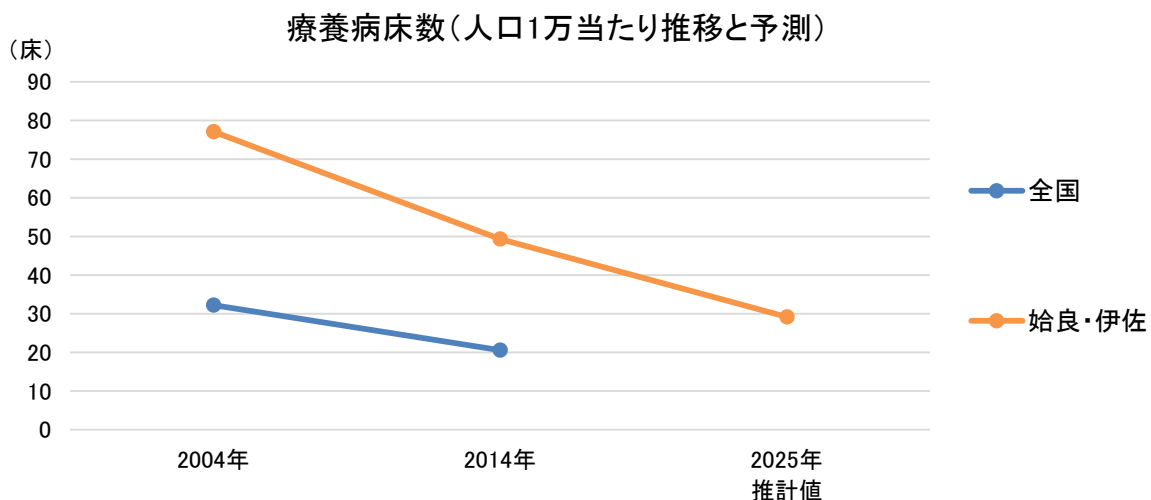
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2309床(人口1万人当たり94(全国平均84)偏差値54)であったが、2014年に2552床(人口1万人当たり107(全国平均79)偏差値60)と、243床の増加、率にして11%の増加(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で増加が続くとすると2025年には2819床(2025年の推計人口1万人当たり126)になることが予想される。



【療養病床の推移と今後の予測】

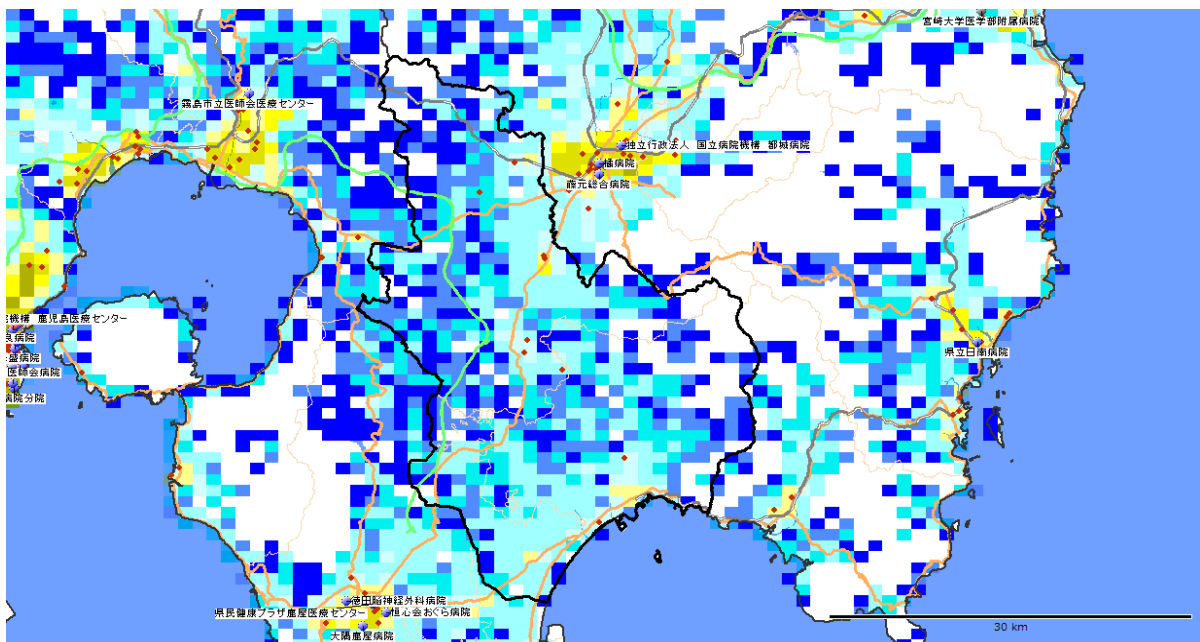
2004年の療養病床(病院+診療所)が2392床(75歳以上1000人当たり77(全国平均32)偏差値75)であったが、2014年に1834床(75歳以上1000人当たり49(全国平均21)偏差値75)と、558床の減少、率にして23%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1220床(2025年の推計75歳以上1000人当たり29)になることが予想される。



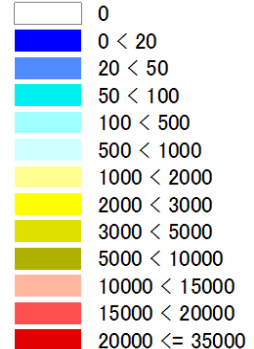
46-6. そ お 曾於医療圏

構成市区町村¹⁰ [曾於市](#) [志布志市](#) [大崎町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群
一般病院

（曾於医療圏） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 曾於(曾於市)は、総人口約81千人(2015年推計)、面積781km²、人口密度は103人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 曾於の総人口は2025年に70千人へと減少し(2015年比-14%)、2040年に55千人へと減少する(2025年比-21%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の17千人が、2025年にかけて16千人へと減少し(2015年比-6%)、2040年には16千人とほぼ変わらない(2025年比±0%)ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 曾於の一人当たり医療費(国保)は365千円(偏差値61)、介護給付費は312千円(偏差値66)であり、医療費は高く、介護給付費は非常に高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 曾於の一人当たり急性期医療密度指数²は0.55、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.97で、急性期の医療はかなり少ないが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が36(病院医師数36、診療所医師数40)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数はともに少ない。総看護師数の偏差値は47とやや少ない。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は38で、一般病床は少ない。全身麻酔数の偏差値は34と非常に少ない。曾於には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は70と療養病床数は非常に多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値49と全国平均レベルであり、回復期病床数は偏差値42と少ない。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は48で精神病床数は全国平均レベルである。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は44で診療所数は少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 曾於の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、1847人(75歳以上1000人当たりの偏差値56)と全国平均レベルを上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1346床(偏差値65)、高齢者住宅等が501床(偏差値43)である。介護保険施設は全国平均レベルを上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、1559人(75歳以上1000人当たりの偏差値63)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設63、特別養護老人ホーム59、介護療養型医療施設58、有料老人ホーム48、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム61、サ高住なし(偏差値31)である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値38と少なく、在宅療養支援病院は存在しない。また、訪問看護ステーションは偏差値41と少ない。介護職員(在宅)の合計は、93人(75歳以上1000人当たりの偏差値35)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は+31%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数では過剰である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

曾於医療圏の総人口は、2005年92360人が、2015年に80739人と13%減少し、2025年の人口が69754人と予測され、2005年→2025年の間に24%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に4%増加し、2015年から2025年にかけて7%程度の減少が予測される。

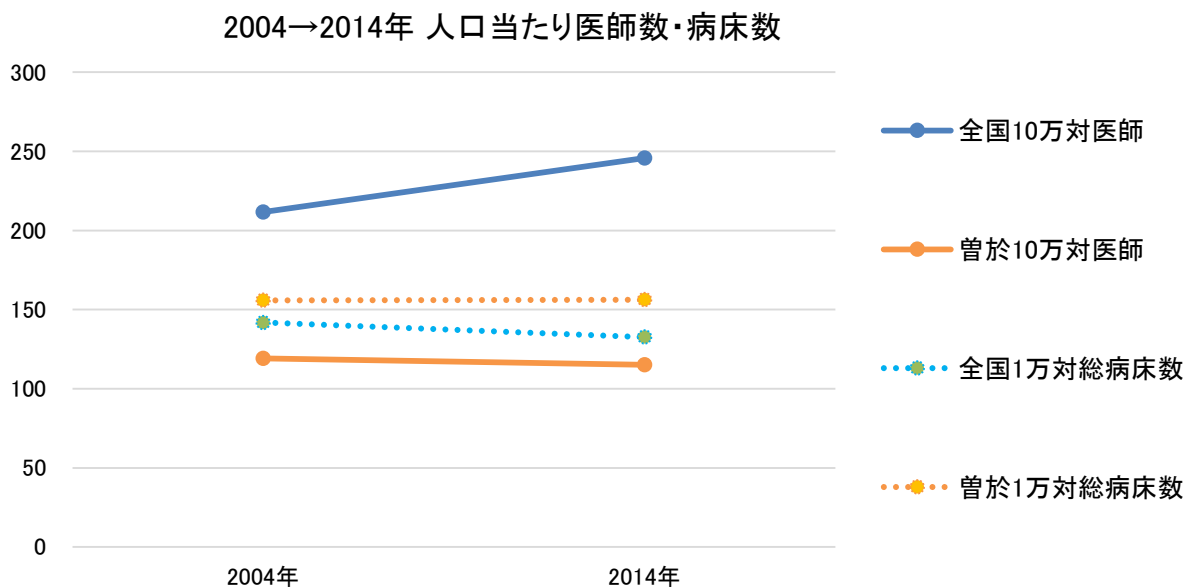
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が12(人口10万人当たり13病院(全国平均7.1)偏差値65)であったが、2014年に10(人口10万人当たり12.4病院(全国平均6.7)偏差値64)となり、10年間で2病院が減少した。

2004年の診療所数が64(人口10万人当たり69診療所(全国平均76)偏差値47)であったが、2014年に54(人口10万人当たり67診療所(全国平均79)偏差値44)と、10診療所が減少した。

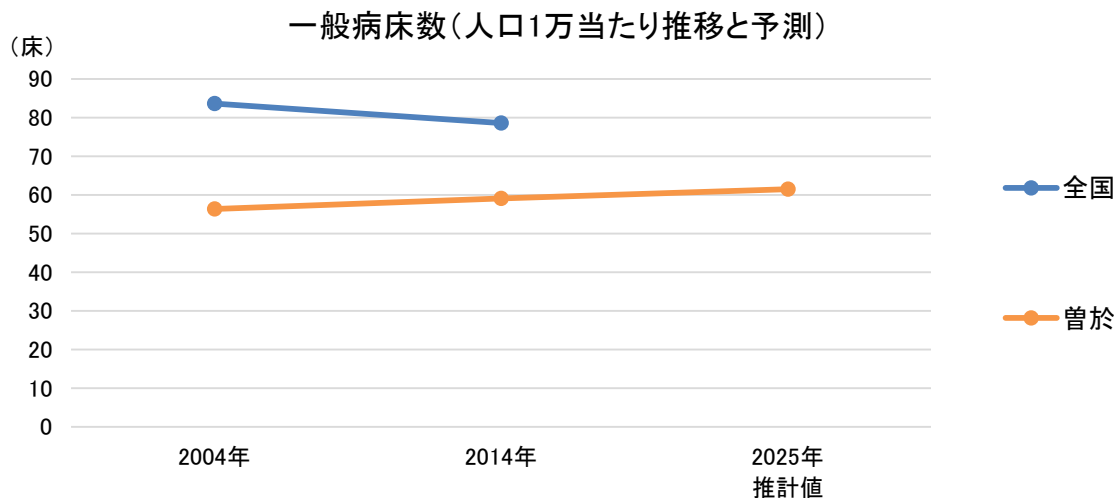
2004年の総病床数が1440床(人口1万人当たり156(全国平均142)偏差値53)であったが、2014年に1262床(人口1万人当たり156(全国平均133)偏差値54)と、178床の減少、率にして12%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が110人(人口10万人当たり119人(全国平均212人)偏差値39)であったが、2014年に93人(人口10万人当たり115人(全国平均246人)偏差値37)と、17人の減少、率にして15%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



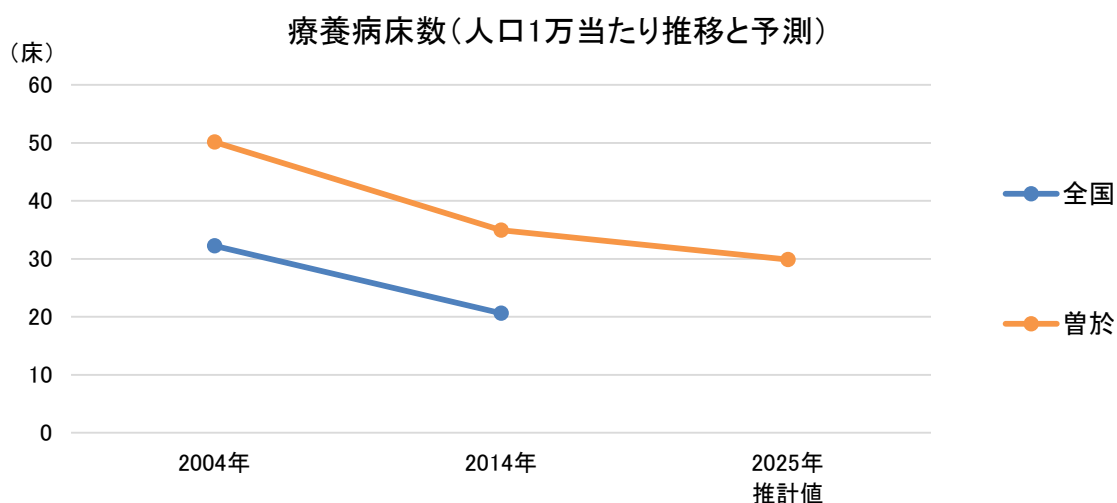
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が521床(人口1万人当たり56(全国平均84)偏差値40)であったが、2014年に477床(人口1万人当たり59(全国平均79)偏差値43)と、44床の減少、率にして8%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には429床(2025年の推計人口1万人当たり62)になることが予想される。



【療養病床の推移と今後の予測】

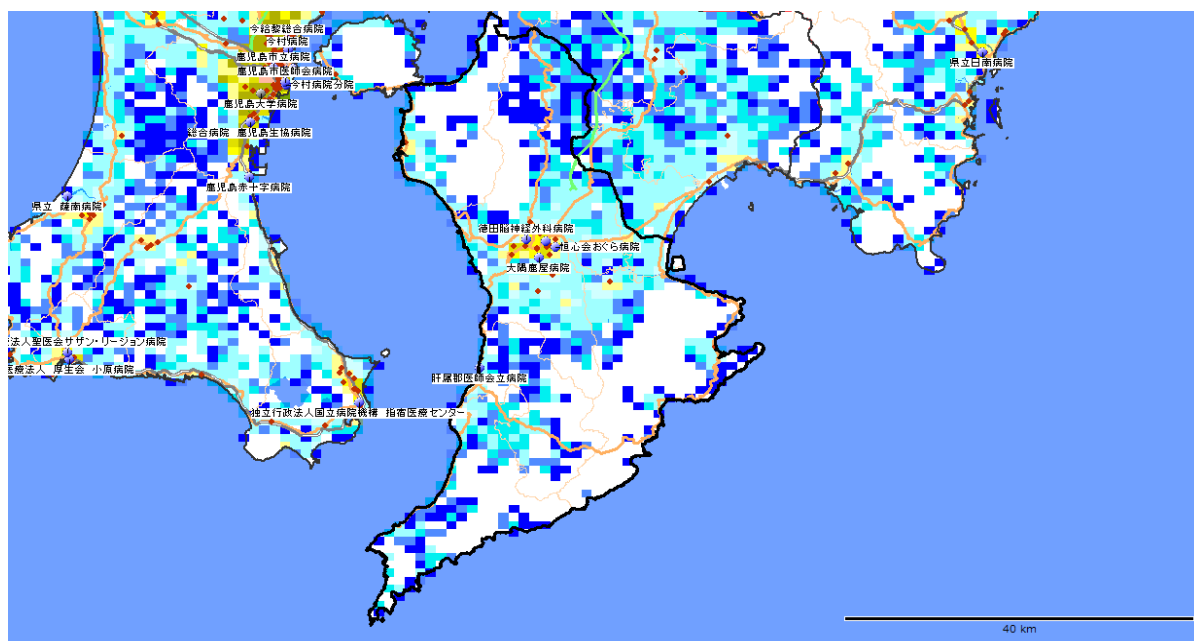
2004年の療養病床(病院+診療所)が693床(75歳以上1000人当たり50(全国平均32)偏差値60)であったが、2014年に595床(75歳以上1000人当たり35(全国平均21)偏差値62)と、98床の減少、率にして14%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には487床(2025年の推計75歳以上1000人当たり30)になることが予想される。



46-7. きもつき 肝属医療圏

構成市区町村¹⁰ [鹿児島市](#) [南大隅町](#) [垂水市](#) [肝付町](#) [東串良町](#) [錦江町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群

一般病院

(肝属医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

*人口、面積など： 肝属(鹿屋市)は、総人口約157千人(2015年推計)、面積1323km²、人口密度は119人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

*人口の将来予測： 肝属の総人口は2025年に142千人へと減少し(2015年比-10%)、2040年に121千人へと減少する(2025年比-15%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の29千人が、2025年にかけて29千人とほぼ変わらず(2015年比±0%)、2040年には30千人へと増加する(2025年比+3%)ことが予想される。

*医療費と介護給付費： 肝属の一人当たり医療費(国保)は360千円(偏差値60)、介護給付費は318千円(偏差値67)であり、医療費は高く、介護給付費は非常に高い。

【医療の現状】

*入院医療の充実度： 肝属の一人当たり急性期医療密度指数²は0.79、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.21で、急性期の医療は少ないが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

*医師・看護師の現状： 総医師数³の偏差値が46(病院医師数46、診療所医師数46)と、総医師数、病院医師数、診療所医師数ともほぼ全国平均レベルである。総看護師数の偏差値は67と非常に多い。

*一般病床等の現状： 人口当たりの一般病床の偏差値は69で、一般病床は非常に多い。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。肝属には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

*療養病床の現状： 人口当たりの療養病床の偏差値は57と療養病床数は多い。

*リハビリの現状： 総療法士数は偏差値74と非常に多く、回復期病床数は偏差値61と多い。

*精神病床の現状： 人口当たりの精神病床の偏差値は58で精神病床数は多い。

*診療所の現状： 人口当たりの診療所数の偏差値は49で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

*介護施設の現状： 肝属の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2567人(75歳以上1000人当たりの偏差値43)と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が1638床(偏差値47)、高齢者住宅等が929床(偏差値45)である。介護保険施設、高齢者住宅等とも全国平均レベルをやや下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、2670人(75歳以上1000人当たりの偏差値63)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設47、特別養護老人ホーム52、介護療養型医療施設なし(偏差値40)、有料老人ホーム40、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム75、サ高住35である。

*在宅ケアの現状： 在宅療養支援診療所は偏差値54とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値55とやや多い。また、訪問看護ステーションは偏差値56と多い。介護職員(在宅)の合計は、298人(75歳以上1000人当たりの偏差値44)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを下回る。

*介護の2040年の需要予測： 2040年の介護充足度指数⁴は+4%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

肝属医療圏の総人口は、2005年170477人が、2015年に156984人と8%減少し、2025年の人口が142135人と予測され、2005年→2025年の間に17%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に4%減少し、2015年から2025年にかけて3%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

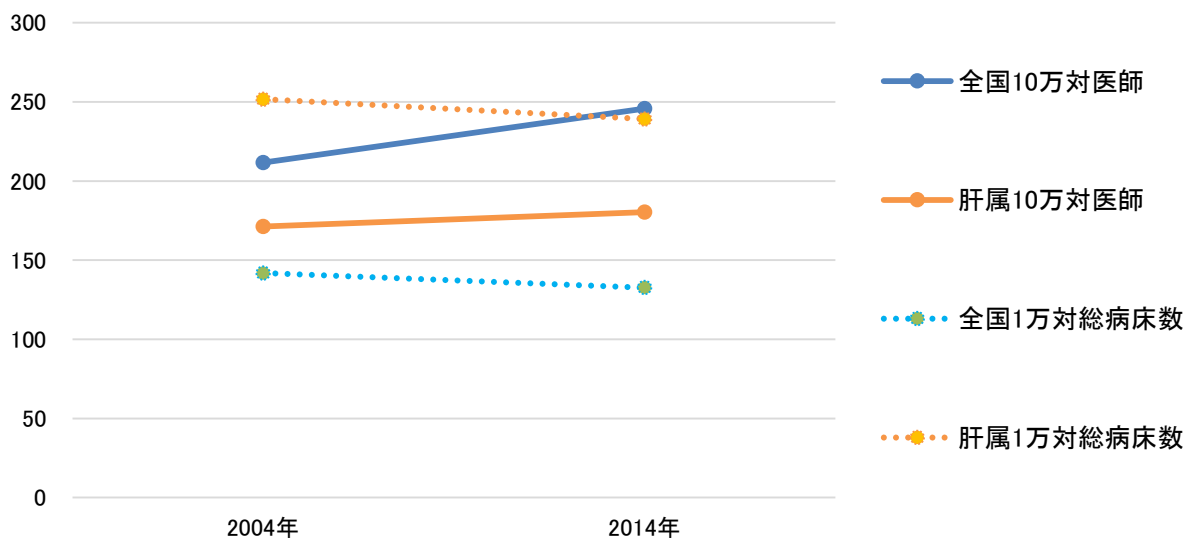
2004年の病院数が26(人口10万人当たり15.3病院(全国平均7.1)偏差値71)であったが、2014年に23(人口10万人当たり14.7病院(全国平均6.7)偏差値69)となり、10年間で3病院が減少した。

2004年の診療所数が129(人口10万人当たり76診療所(全国平均76)偏差値50)であったが、2014年に121(人口10万人当たり77診療所(全国平均79)偏差値49)と、8診療所が減少した。

2004年の総病床数が4291床(人口1万人当たり252(全国平均142)偏差値70)であったが、2014年に3754床(人口1万人当たり239(全国平均133)偏差値69)と、537床の減少、率にして13%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

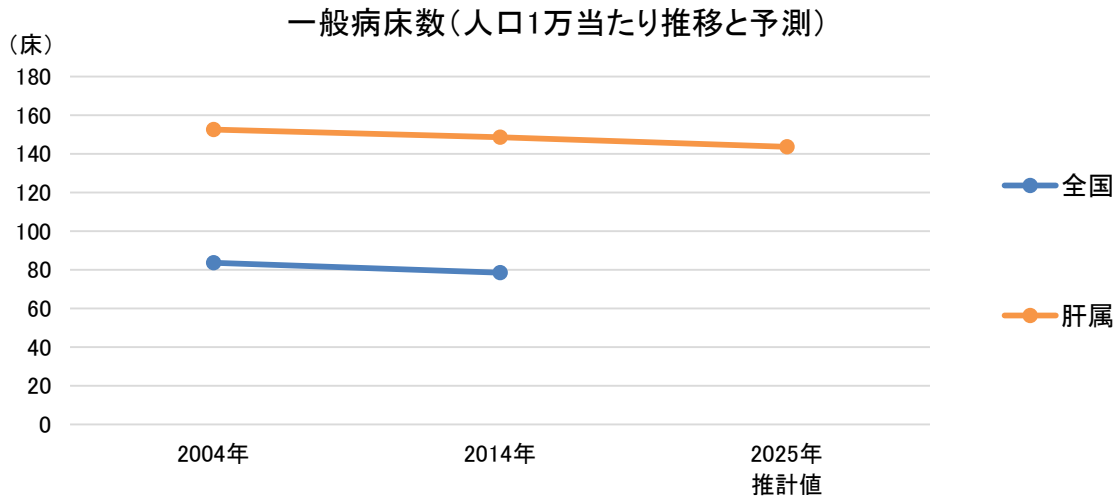
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が292人(人口10万人当たり171人(全国平均212人)偏差値45)であったが、2014年に283人(人口10万人当たり180人(全国平均246人)偏差値43)と、9人の減少、率にして3%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



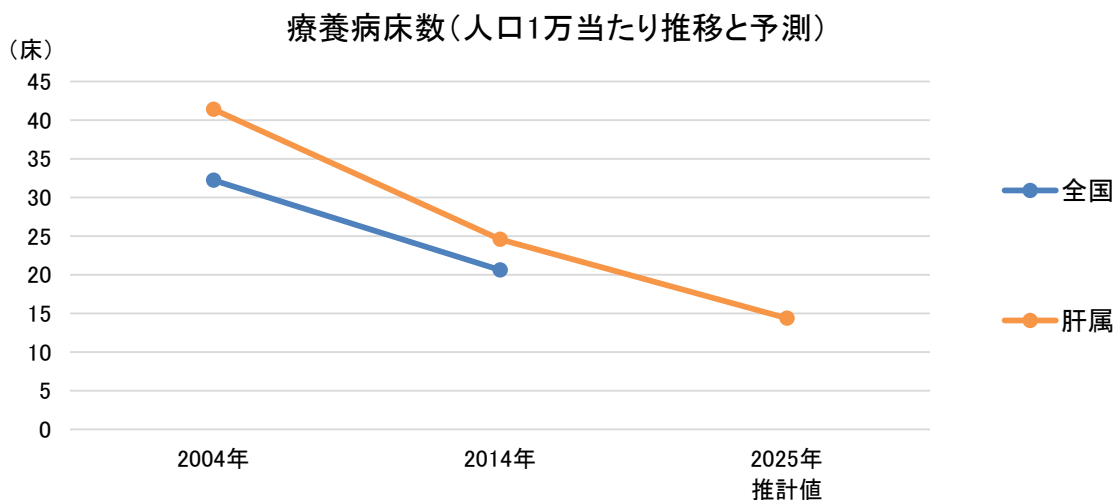
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が2600床(人口1万人当たり153(全国平均84)偏差値74)であったが、2014年に2334床(人口1万人当たり149(全国平均79)偏差値76)と、266床の減少、率にして10%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には2041床(2025年の推計人口1万人当たり144)になることが予想される。



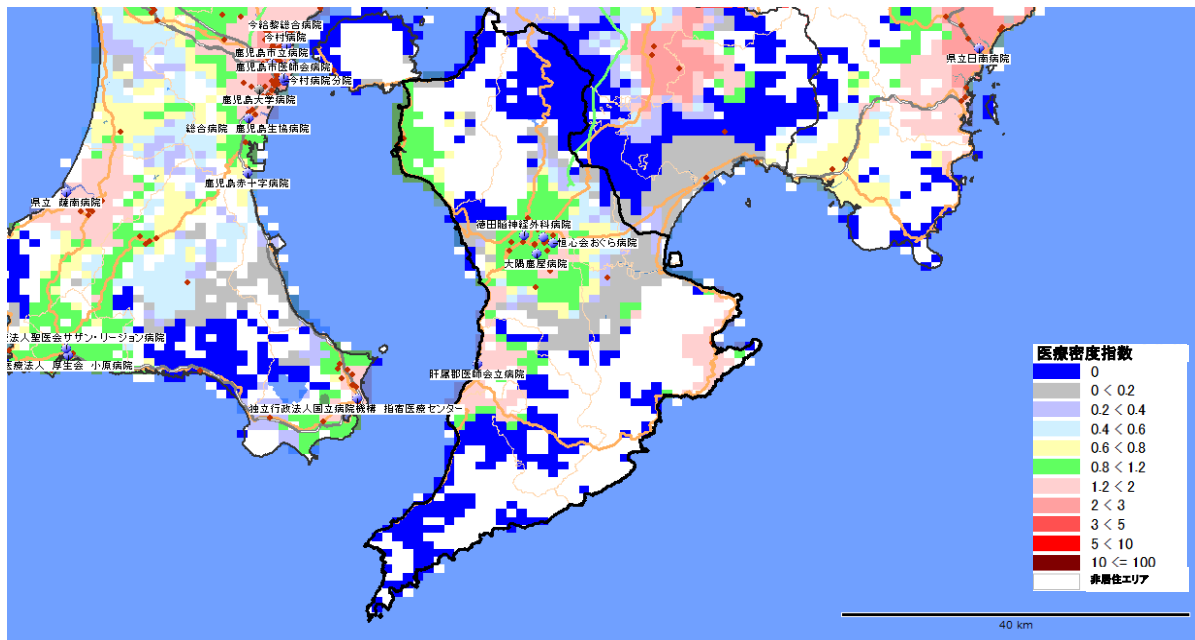
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が988床(75歳以上1000人当たり41(全国平均32)偏差値55)であったが、2014年に717床(75歳以上1000人当たり25(全国平均21)偏差値53)と、271床の減少、率にして27%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には419床(2025年の推計75歳以上1000人当たり14)になることが予想される。

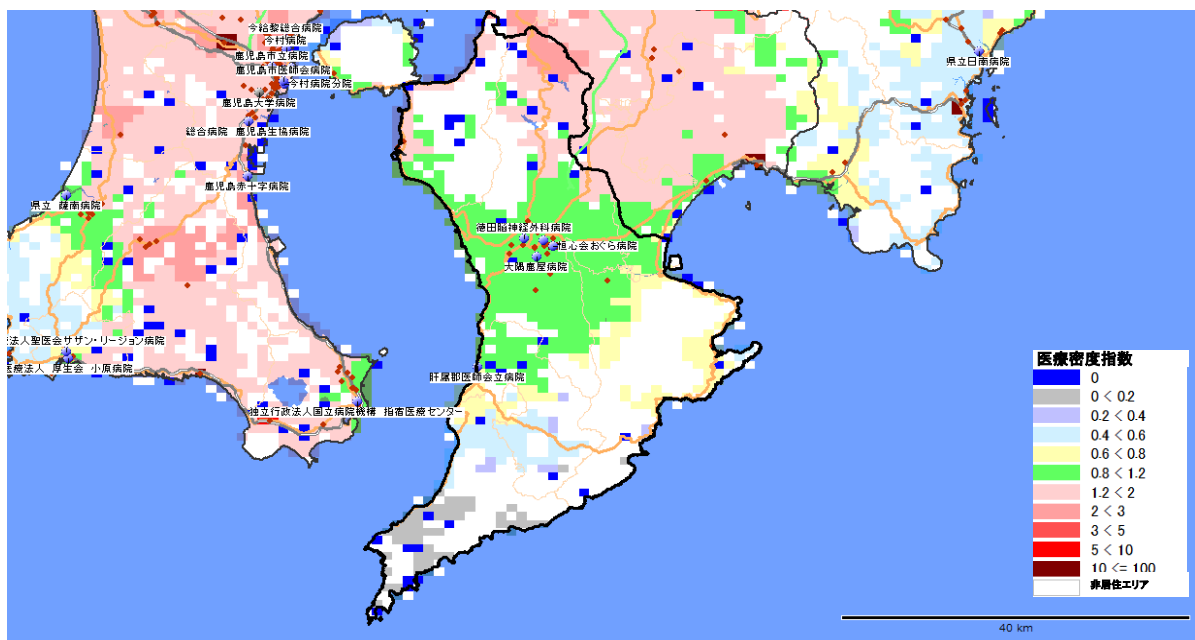


3. 医療密度⁵

図表46-7-1 急性期医療密度指数マップ



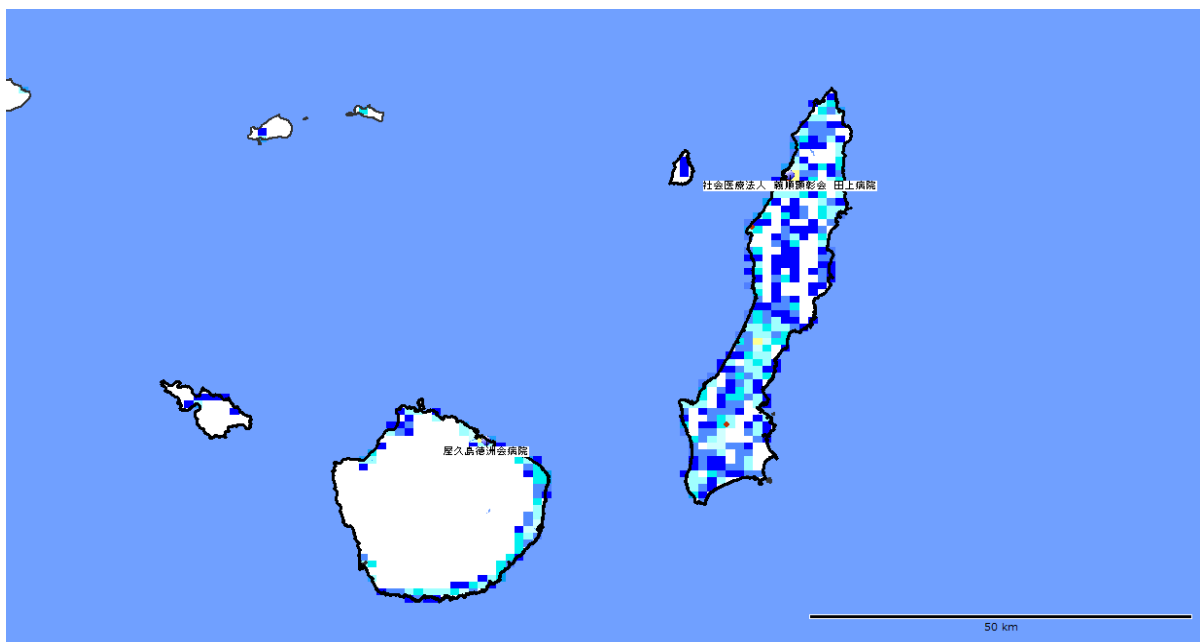
図表46-7-2 慢性期医療密度指数マップ



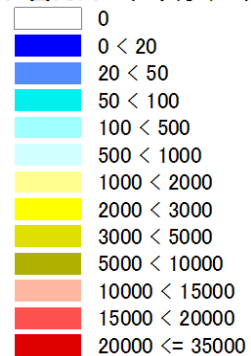
46-8. くまげ 熊毛医療圏

構成市区町村¹⁰ [西之表市](#) [中種子町](#) [南種子町](#) [屋久島町](#)

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群
一般病院

（熊毛医療圏） 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

（参照：資料編の図表）

【地域の概要】

***人口、面積など：** 熊毛（西之表市）は、総人口約43千人（2015年推計）、面積995km²、人口密度は43人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 熊毛の総人口は2025年に38千人へと減少し（2015年比-12%）、2040年に31千人へと減少する（2025年比-18%）ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の8千人が、2025年にかけて8千人とほぼ変わらず（2015年比±0%）、2040年には8千人とほぼ変わらない（2025年比±0%）ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 熊毛の一人当たり医療費（国保）は311千円（偏差値48）、介護給付費は280千円（偏差値57）であり、医療費は全国平均レベルであるが、介護給付費は高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 熊毛の一人当たり急性期医療密度指数²は0.91、一人当たり慢性期医療密度指数²は2.44で、急性期の医療は全国平均レベルであるが、慢性期の医療はかなり余裕がある。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が39（病院医師数44、診療所医師数32）と、総医師数、病院医師数はともに少なく、診療所医師数は非常に少ない。総看護師数の偏差値は49と全国平均レベルである。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は63で、一般病床は多い。全身麻酔数の偏差値は36と少ない。熊毛には、年間全身麻酔件数が500例以上の病院はない。

***療養病床の現状：** 療養病床は0である。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値56と多く、回復期病床数は偏差値62と多い。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は52で精神病床数は全国平均レベルである。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は37で診療所数は少ない。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 熊毛の総高齢者施設・住宅定員数（介護療養病床含む）合計は、648人（75歳以上1000人当たりの偏差値38）と全国平均レベルを下回る。そのうち、介護保険施設の定員が516床（偏差値53）、高齢者住宅等が132床（偏差値34）である。介護保険施設は全国平均レベルをやや上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを大きく下回る。また、介護職員（介護施設等）の合計は、703人（75歳以上1000人当たりの偏差値58）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設33、特別養護老人ホーム67、介護療養型医療施設なし（偏差値40）、有料老人ホームなし（偏差値37）、軽費ホームなし（偏差値43）、グループホーム51、サ高住37である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値44と少なく、在宅療養支援病院は偏差値58と多い。また、訪問看護ステーションは偏差値31と非常に少ない。介護職員（在宅）の合計は、103人（75歳以上1000人当たりの偏差値48）で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は-5%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でほぼ対応可能である。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

熊毛医療圏の総人口は、2005年47904人が、2015年に43011人と10%減少し、2025年の人口が38008人と予測され、2005年→2025年の間に21%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に10%増加し、2015年から2025年にかけて6%程度の減少が予測される。

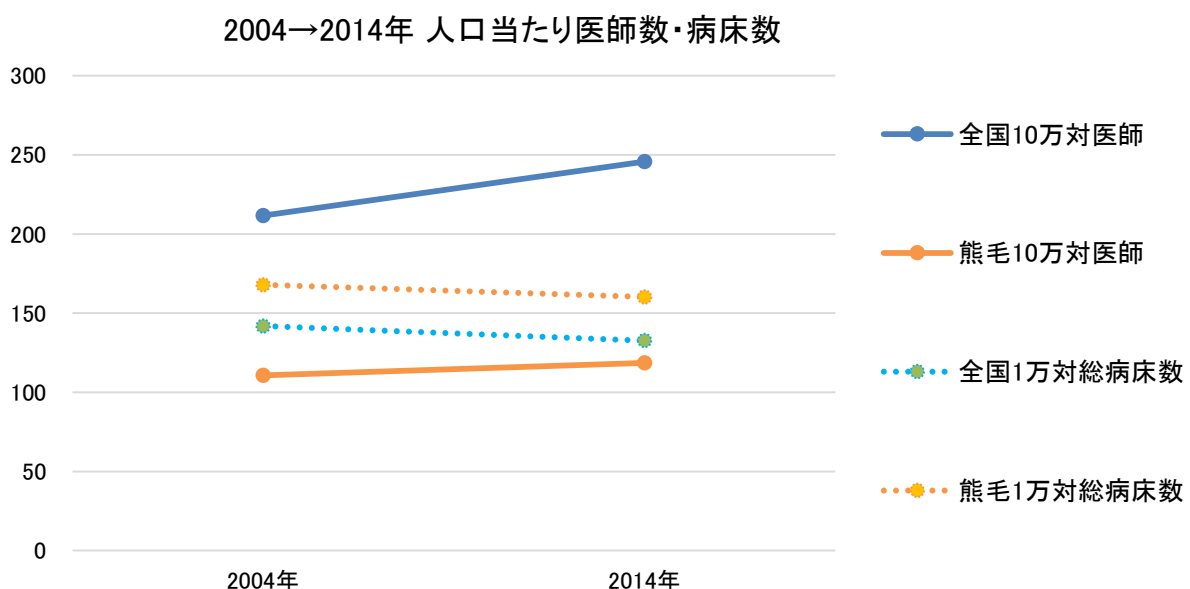
【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

2004年の病院数が5(人口10万人当たり10.4病院(全国平均7.1)偏差値59)であったが、2014年に5(人口10万人当たり11.6病院(全国平均6.7)偏差値62)となり、10年間で増減がなかった。

2004年の診療所数が23(人口10万人当たり48診療所(全国平均76)偏差値36)であったが、2014年に23(人口10万人当たり53診療所(全国平均79)偏差値37)と、増減がなかった。

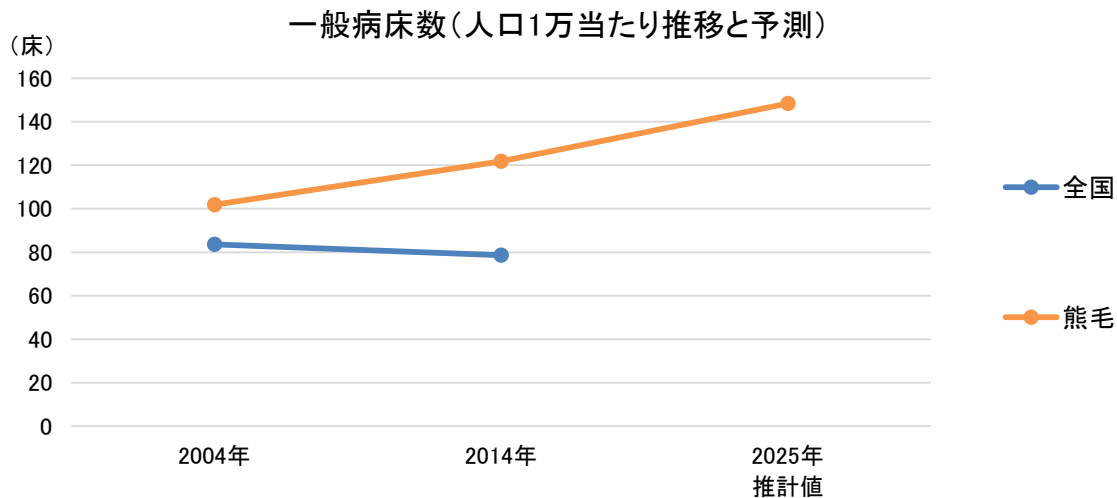
2004年の総病床数が804床(人口1万人当たり168(全国平均142)偏差値55)であったが、2014年に689床(人口1万人当たり160(全国平均133)偏差値55)と、115床の減少、率にして14%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

2004年には病院と診療所合わせての医師数³が53人(人口10万人当たり111人(全国平均212人)偏差値38)であったが、2014年に51人(人口10万人当たり119人(全国平均246人)偏差値37)と、2人の減少、率にして4%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。



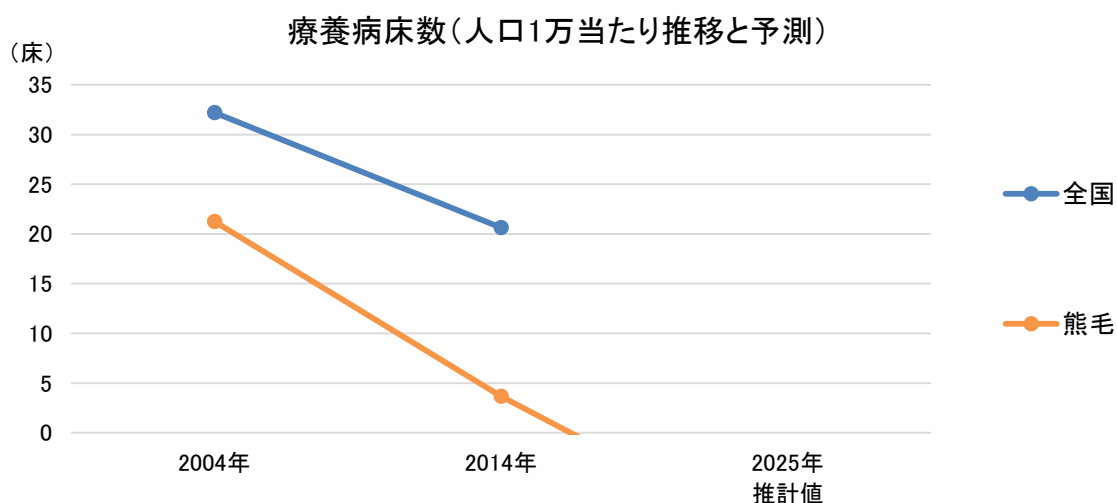
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が488床(人口1万人当たり102(全国平均84)偏差値56)であったが、2014年に524床(人口1万人当たり122(全国平均79)偏差値66)と、36床の増加、率にして7%の増加(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で増加が続くとすると2025年には564床(2025年の推計人口1万人当たり148)になることが予想される。



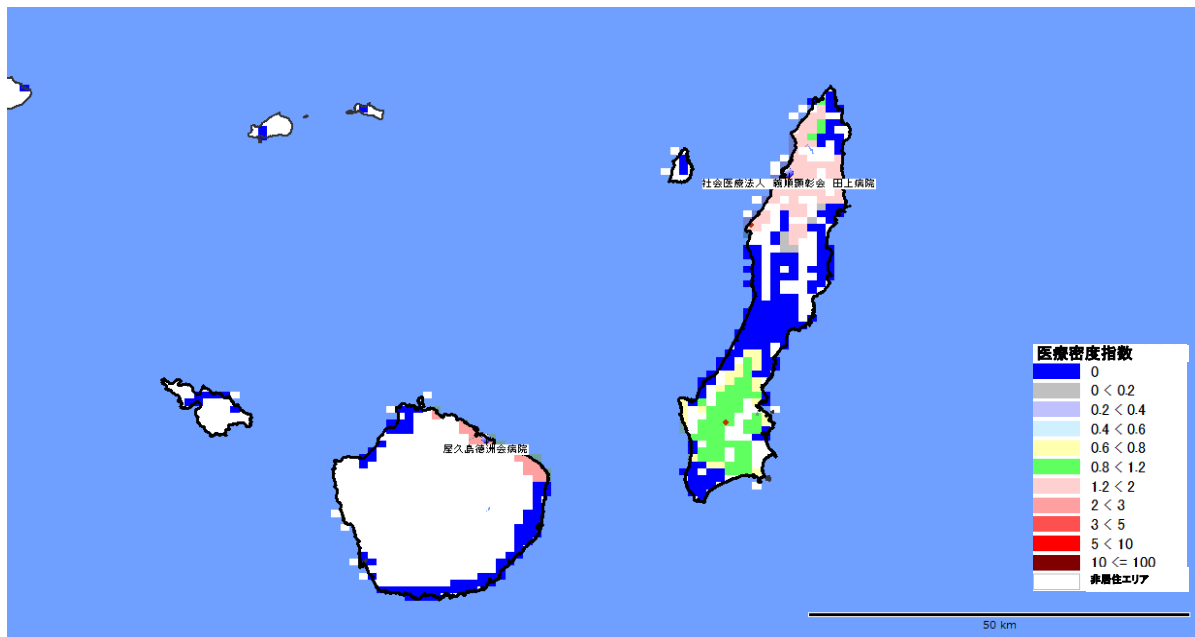
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が144床(75歳以上1000人当たり21(全国平均32)偏差値44)であったが、2014年に30床(75歳以上1000人当たり4(全国平均21)偏差値35)と、114床の減少、率にして79%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には-95床(2025年の推計75歳以上1000人当たり-11)になることが予想される。

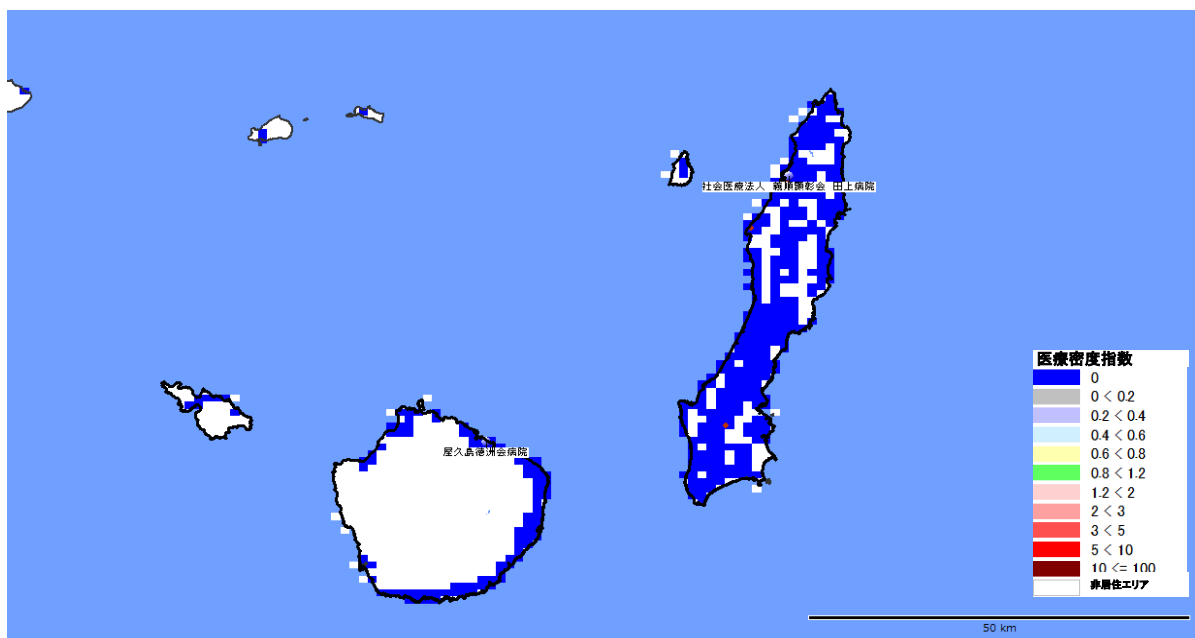


3. 医療密度⁵

図表46-8-1 急性期医療密度指数マップ



図表46-8-2 慢性期医療密度指数マップ

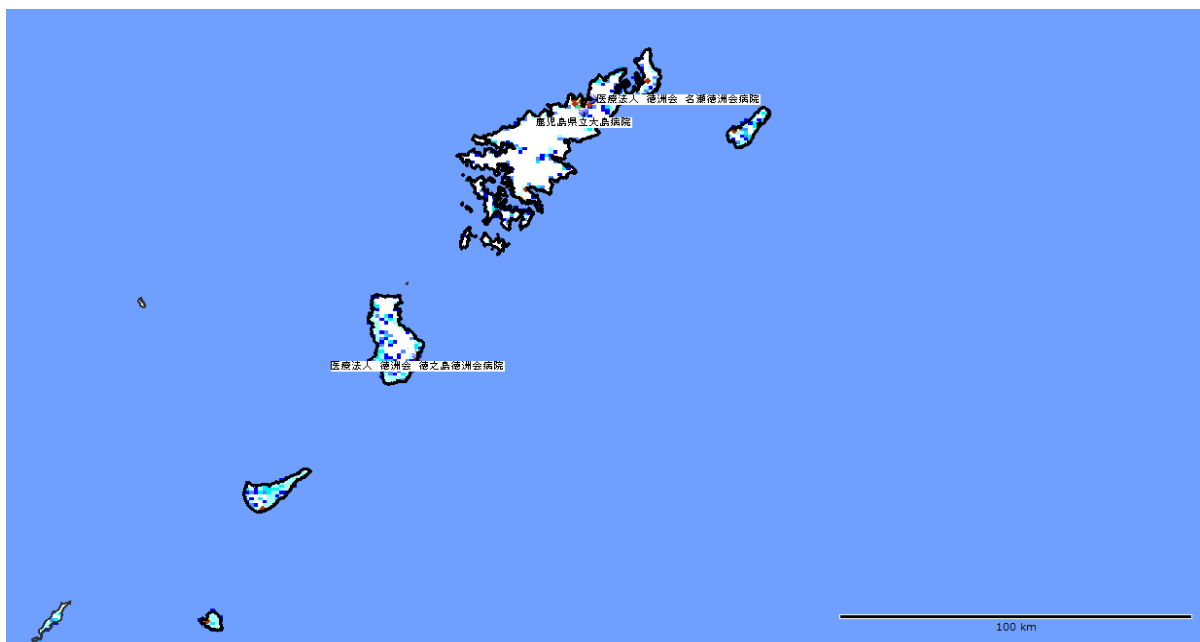


46-9. あまみ奄美医療圏

構成市区町村¹⁰

奄美市	大和村	宇検村	瀬戸内町
龍郷町	喜界町	徳之島町	天城町
伊仙町	和泊町	知名町	与論町

人口分布¹ (1km²区画単位)



区画内人口(1平方キロ)



Ⅲ群
一般病院

(奄美医療圏) 1. 地域ならびに医療介護資源の総括

(参照：資料編の図表)

【地域の概要】

***人口、面積など：** 奄美(奄美市)は、総人口約112千人(2015年推計)、面積1240km²、人口密度は90人/km²の過疎地域型二次医療圏である。

***人口の将来予測：** 奄美の総人口は2025年に100千人へと減少し(2015年比-11%)、2040年に82千人へと減少する(2025年比-18%)ことが予想される。一方、75歳以上人口は、2015年の21千人が、2025年にかけて21千人とほぼ変わらず(2015年比±0%)、2040年には24千人へと増加する(2025年比+14%)ことが予想される。

***医療費と介護給付費：** 奄美の一人当たり医療費(国保)は291千円(偏差値43)、介護給付費は325千円(偏差値69)であり、医療費は低い、介護給付費は非常に高い。

【医療の現状】

***入院医療の充実度：** 奄美の一人当たり急性期医療密度指数²は1.31、一人当たり慢性期医療密度指数²は1.12で、急性期の医療は充実しているが、慢性期の医療は全国平均レベルである。

***医師・看護師の現状：** 総医師数³の偏差値が47(病院医師数48、診療所医師数44)と、総医師数はほぼ全国平均レベルであるが、診療所医師数は少ない。総看護師数の偏差値は64と多い。

***一般病床等の現状：** 人口当たりの一般病床の偏差値は67で、一般病床は非常に多い。全身麻酔数の偏差値は44と少ない。奄美には、年間全身麻酔件数が500例以上の鹿児島県立大島病院(Ⅲ群・救命)がある。

***療養病床の現状：** 人口当たりの療養病床の偏差値は62と療養病床数は多い。

***リハビリの現状：** 総療法士数は偏差値51と全国平均レベルであり、回復期病床数は0である。

***精神病床の現状：** 人口当たりの精神病床の偏差値は68で精神病床数は非常に多い。

***診療所の現状：** 人口当たりの診療所数の偏差値は52で診療所数は全国平均レベルである。

【介護施設や在宅ケアの現状】

***介護施設の現状：** 奄美の総高齢者施設・住宅定員数(介護療養病床含む)合計は、2237人(75歳以上1000人当たりの偏差値54)と全国平均レベルをやや上回る。そのうち、介護保険施設の定員が1704床(偏差値66)、高齢者住宅等が533床(偏差値40)である。介護保険施設は全国平均レベルを大きく上回るが、高齢者住宅等は全国平均レベルを下回る。また、介護職員(介護施設等)の合計は、2006人(75歳以上1000人当たりの偏差値66)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルを大きく上回る。

施設別の75歳以上1000人当たり定員数の偏差値は、老人保健施設61、特別養護老人ホーム66、介護療養型医療施設45、有料老人ホーム45、軽費ホームなし(偏差値43)、グループホーム55、サ高住34である。

***在宅ケアの現状：** 在宅療養支援診療所は偏差値55とやや多く、在宅療養支援病院は偏差値76と非常に多い。また、訪問看護ステーションは偏差値59と多い。介護職員(在宅)の合計は、278人(75歳以上1000人当たりの偏差値49)で、75歳以上人口当たりでは全国平均レベルである。

***介護の2040年の需要予測：** 2040年の介護充足度指数⁴は+12%であり、2040年に現在の全国平均レベルの高齢者施設・住宅の定員を確保するには、現在の高齢者施設・住宅数でやや過剰ぎみである。

2. 推移と将来推計

【人口と医療需要】

奄美医療圏の総人口は、2005年126483人が、2015年に112166人と11%減少し、2025年の人口が99527人と予測され、2005年→2025年の間に21%程度の減少が予測されている。

医療の需要は、2005年から2015年に7%減少し、2015年から2025年にかけて2%程度の減少が予測される。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】

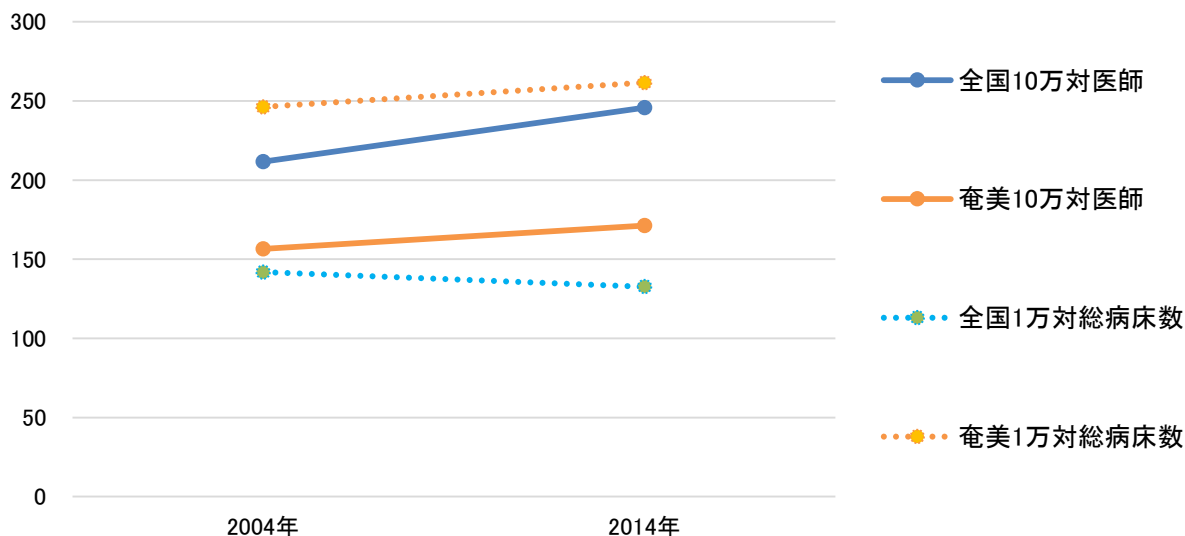
2004年の病院数が16(人口10万人当たり12.6病院(全国平均7.1)偏差値64)であったが、2014年に15(人口10万人当たり13.4病院(全国平均6.7)偏差値66)となり、10年間で1病院が減少した。

2004年の診療所数が101(人口10万人当たり80診療所(全国平均76)偏差値52)であったが、2014年に94(人口10万人当たり84診療所(全国平均79)偏差値52)と、7診療所が減少した。

2004年の総病床数が3114床(人口1万人当たり246(全国平均142)偏差値69)であったが、2014年に2934床(人口1万人当たり262(全国平均133)偏差値73)と、180床の減少、率にして6%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。

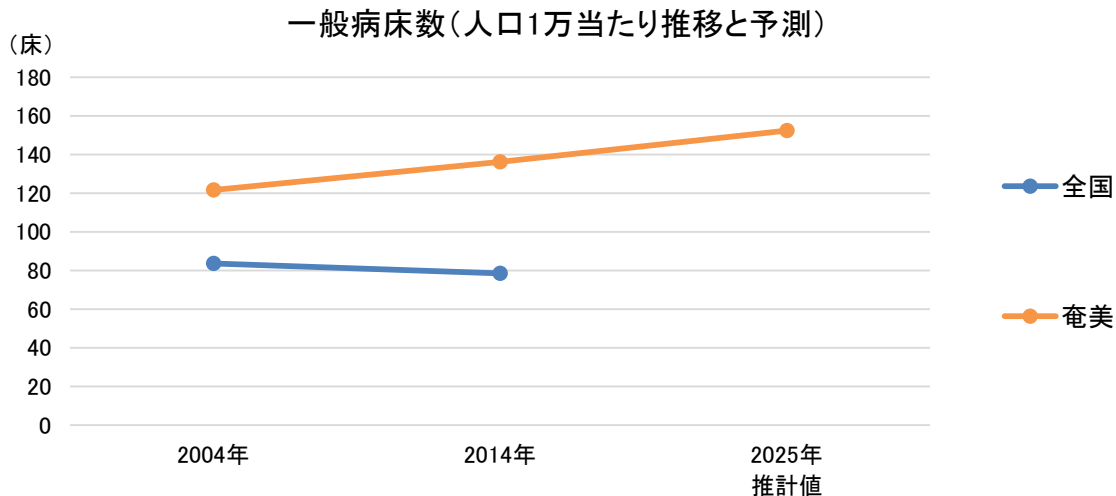
2004年には病院と診療所合わせての医師数³が198人(人口10万人当たり157人(全国平均212人)偏差値43)であったが、2014年に192人(人口10万人当たり171人(全国平均246人)偏差値42)と、6人の減少、率にして3%の減少(全国平均15%の増加)が見られた。

2004→2014年 人口当たり医師数・病床数



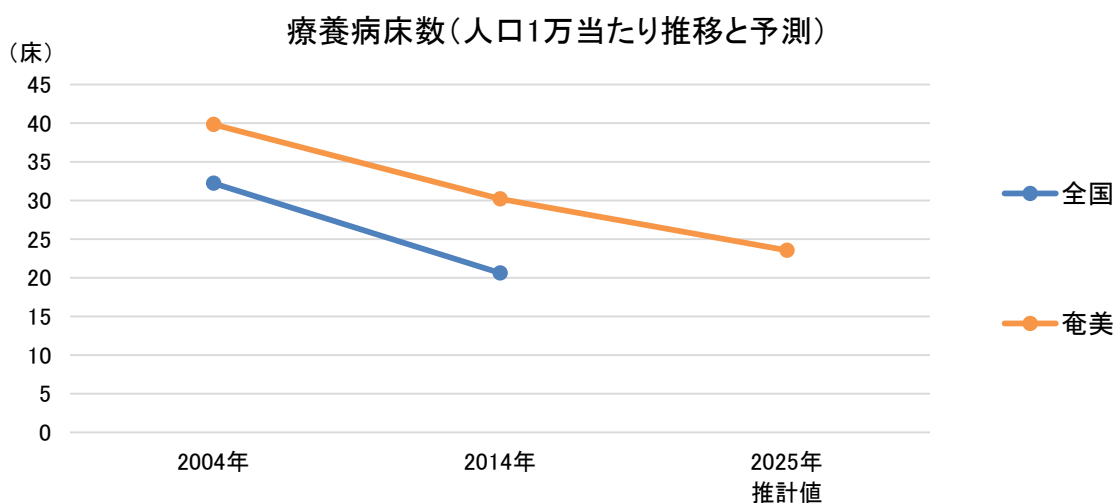
【一般病床の推移と今後の予測】

2004年の一般病床(病院+診療所)が1538床(人口1万人当たり122(全国平均84)偏差値63)であったが、2014年に1528床(人口1万人当たり136(全国平均79)偏差値71)と、10床の減少、率にして1%の減少(全国平均7%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には1517床(2025年の推計人口1万人当たり152)になることが予想される。



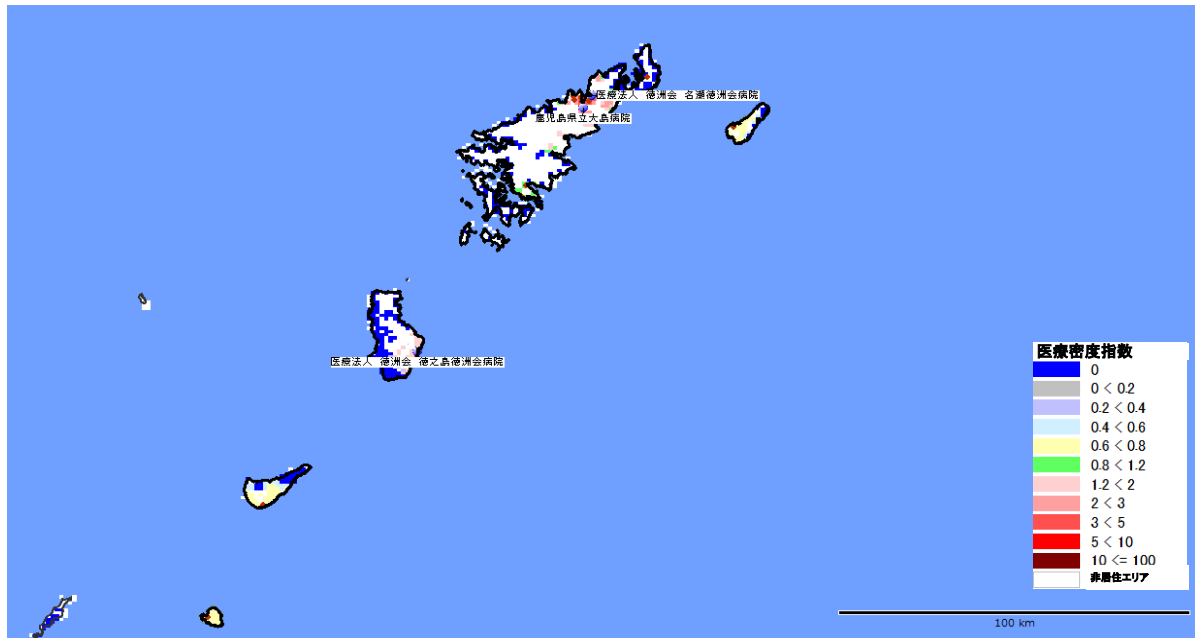
【療養病床の推移と今後の予測】

2004年の療養病床(病院+診療所)が768床(75歳以上1000人当たり40(全国平均32)偏差値54)であったが、2014年に641床(75歳以上1000人当たり30(全国平均21)偏差値58)と、127床の減少、率にして17%の減少(全国平均9%の減少)が見られた。この調子で減少が続くとすると2025年には501床(2025年の推計75歳以上1000人当たり24)になることが予想される。

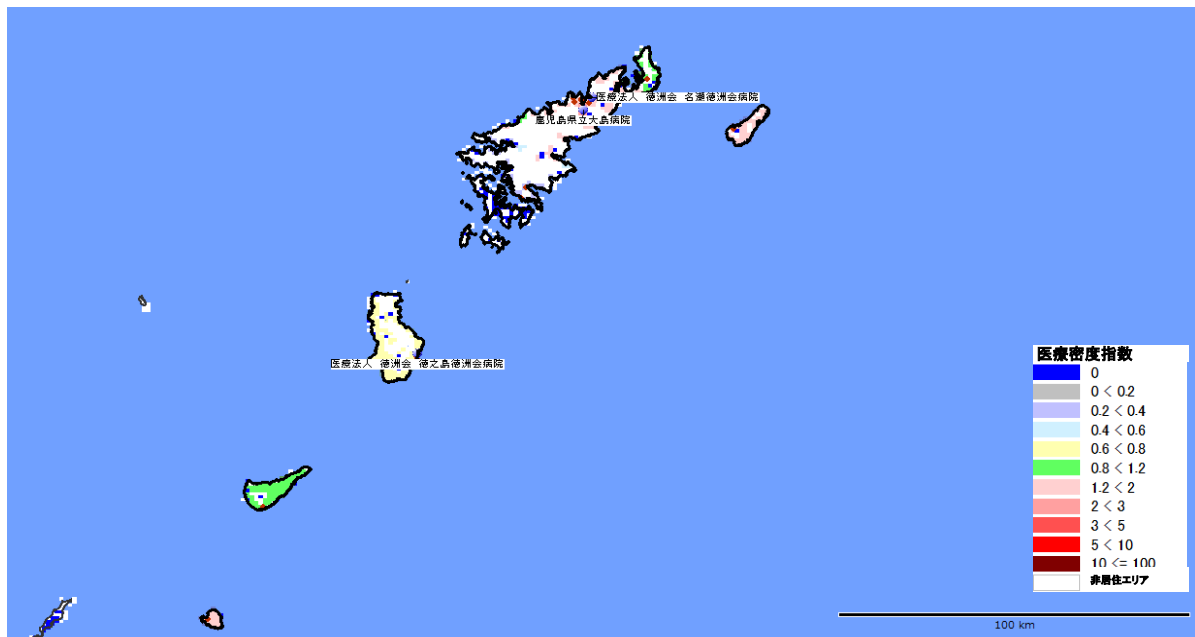


3. 医療密度⁵

図表46-9-1 急性期医療密度指数マップ



図表46-9-2 慢性期医療密度指数マップ



注

¹1km²区画(1km²メッシュ)で分割した各区画内の居住人口。赤色系統は人口が多く(10,000人/km²以上)、黄色系統は中間レベル(1,000~10,000人/km²)、青色系統は人口が少ない(1,000人/km²未満)。白色は非居住地。
出所:国勢調査(平成22年、総務省)地図情報GIS MarketAnalyzer ver.3.7 地図 PAREAシリーズ

²その地域の住民が、どの程度の医療(急性期及び慢性期)を利用できるかの目安を示す指標。1.0が全国平均。0.8を下回ると少ない、0.6を下回ると非常に少ない、1.2以上充実、1.5以上非常に充実。

³【医療の現状】で使用した総医師数は、病院医師数(平成26年病院報告(厚生労働省 平成26年10月))と診療所医師数(平成26年医療施設調査(厚生労働省 平成26年10月))の合計。

【病院数、診療所数、総病床数、医師数の推移】で使用した2014年の総医師数は、平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査(厚生労働省 平成26年12月)に基づく病院医師数と診療所医師数の合計。

⁴高齢者住宅・施設の各地域の受入れ充足度を示す指標。各年度の75歳1,000人(推計)に対する高齢者住宅・施設のベッド数が、2016年の全国平均(99.3床)と比べて何%多いか少ないかを示す。集計対象は、介護三施設、軽費老人ホーム、グループホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者賃貸住宅等である。

⁵急性期医療密度、慢性期医療密度の定義、算出方法については序章を参照。

⁶日医総研WP no.352「地域の医療提供体制の現状-都道府県別・二次医療圏別データ集(2015年度版)を更新。ウェルネス・二次医療圏データベースシステム使用。

⁷複数医療圏にまたがる広域連合の医療費・介護費については、構成市町村の医療圏毎の75歳以上人口比で案分した上で、二次医療圏単位で集計している。

⁸近畿厚生局のデータは入手できていないため、合計値には含んでない。人口あたり病床数(全国値)の算出にあたっては、データを入手できていない地域の人口は除いて計算している。

⁹市町村国保の保険者単位のデータしかないため、同一の保険者において複数の二次医療圏をもつ横浜市と川崎市は保険者単位で算出している。

「入院」は、入院診療及び食事療養・生活療養の計である。

「入院外+調剤」は、入院外診療及び調剤の支給の計である。

¹⁰日本医師会JMAP(地域医療情報システム)で地域別の人口動態、医療機関、介護施設の情報を参照可能 <http://jmap.jp/> ネットで閲覧の場合、地域名をクリックするとリンク先に移動します。